



0045308-000

375.3-Sy961s

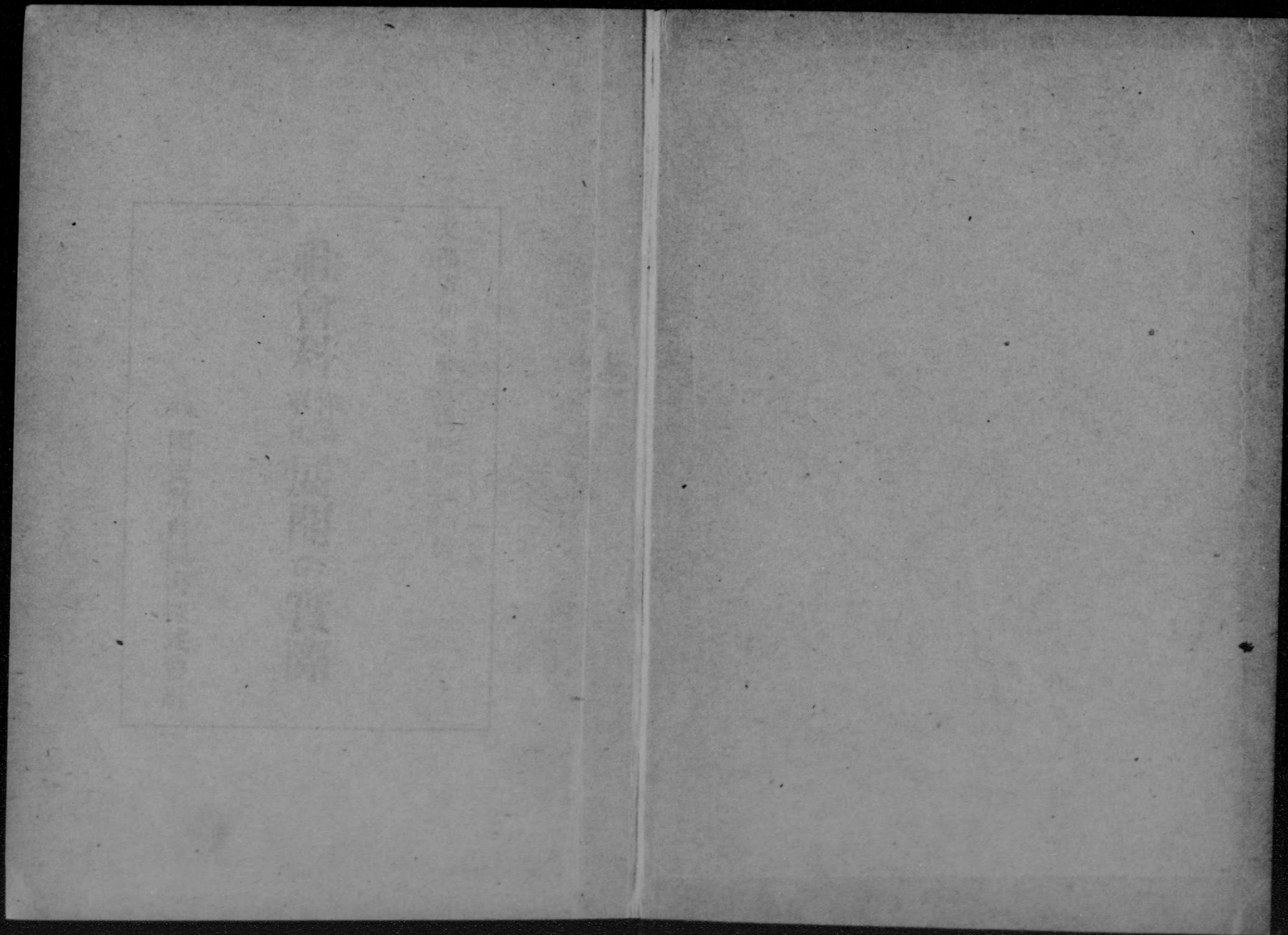
社会科作業单元展開の実際

初等教育研究協議会・編

国民教育図書

1948

AHF



文部省初等教育課

初等教育  
研究協議會編

社會科  
作業單元  
展開の實際

東京國民教育圖書株式會社

375.3  
Sy961x



304984

序

昭和二十一年十一月、ヘレン・ヘフアナン女史（米國カリフォルニア州初等教育部長）が来朝されるや、同女史の好意にもとずいて、文部省學校教育局青少年教育課（後に初等教育課と改稱）が世話役となり、同女史を中心として東京在任の初等教育關係者が集まり、毎週一回の定例の會合を開いて初等教育各般の問題について研究協議を委ねることとなつた。これが「初等教育研究協議會」のおこりである。それから約一年間その會合は熱心に續けられてきたのである。この間、女史の卓越した學識と人格、殊に日本の兒童や教育者に對する深い愛情は、會員一同の心から感銘する所となり、それがこの會を、新しい教育推進のための、一種の同志的な結合に近いものにまで導いたのであつた。

研究題目として取上げられたものは、初等教育の目標、小學校カリキュラム、「郷土社會學校」等各般のことにわたつたが、新學年を迎えるところから會員の要望もあつて「社會科」を中心の論題

とするようになった。社会科新設に関する諸問題の研究を重ねているうちに、そのうちでも、社会科の実際の運営にあたって、どんな「作業單元」をたて、それをいかに展開していくかが、当面の問題としても、最大の関心をよんだ論議の中心となつたのであつた。

はじめは、學年に應じ、地域の實情に應じた適切な作業單元をたてそれを正しく疊かに展開することを、自分自身の問題として學びとり、自分たちの研究を深め實際に役立たせようとしたのであつた。多年同科の發展に努力されて來たヘフ、ナン女史の経験と學識とは、その渴望をみたすに十分であつたことはいふまでもない。

そうしているうちに、この一應の成果をまとめて一般に發表したら、一般の教師諸君に、何らかの手がかりとして役立つのではなからうか、ということに氣付いて、この書を出來るだけ早く公刊することに決したのである。

やむを得ない事情から來ることではあるが、「作業單元」についての無理解や偏見があまりにもひろがつている。社会科の運営の第一步を正しく踏みだすためにも、「作業單元」を平明に具體的に説明することが必要になつてゐる。しかも、社会科だけでなく、あらゆる部面において兒童の實際の生活経験の流れに應じた作業單元を展開していくことにより學問を進めていくのが、新しい教育のやり方である。われわれが全力を盡して研究討議したとはいえ、この書にまとめられている

ものは、まだ不十分な未熟な所を多く持つてゐる。しかし、社会科の將來の運営のために、新らしい教育の進展のために、一般の人々の研究の素材となり論議の的となるものが存在することも、何らかの理由のあることであらう。出來あがつた定型を示すのではなく、將來のための棄て石として踏み臺として役立つ所の一應の試案を提供して見よう。こう考えて、われわれは、まづ小さやかな共同研究の結果を版に附することにしたのである。

本書の前半の部分、作業單元の展開の仕方の説明の部分は、直接ヘフ、ナン女史の指導に負う所が特に多い。したがつて、用語や引例も、米國流のものをそのまま用いてゐる所が多いが、讀者はいずれにしても自分の今の實情に即して適切な読みとり方をしていただくのであるから、強いて手をいれなかつた。後半の各學年についての實例は、會員が數名づつ各學年を分擔し、執筆して全體の會議で討論の上まとめたものであるが、いふまでもなく、これが模範的であるわけではなく、まして一つの定つた型を示しているものではない。讀者が、それぞれの識見によつてこれに批判と検討を加え、それぞれの實情に應じて、さらに適切な案を工夫されることを切に期待しているのである。兒童の生活経験が學習であるとの、教育の本道に立つたこうしたやり方が、どれか一つの特定の小路しか通れないというものではさらになく、兒童の心身の發達に應じ、その要求に即し、その郷土社會の實情やいろいろな事情に應じて、その時その場において、もつとも適切なやり方が計畫

され、實施されねばならない。

この書を世に送るにあたって、われわれは、どうしてわれらが師、ヘフナン先生に、われわれの感謝の心を現わしているか、その方法を知らない。先生の、日本の児童と教育者に對する熱愛と理解に對して、われわれ初等教育者に對する懇切な指導と激勵に對して、われわれは感謝と感激に胸を熱くしているのであるが、悲しいかなわれわれはその恩の幾分にでも報い、感謝の氣持の一端を形にあらわすすべを持たないのである。せめて、この一書を、われらの師ヘフナン先生に、獻呈するの非禮を敢てしたのである。さいわいに、われわれの衷情をくんでいただき、非禮をとがめることなく、いつものひろく明るく微笑をもつて、この獻呈を受けていただければ、われわれの喜びこれに過ぎるものはない。いつの日か、先生がまいて下さつた種子が成長して大木となり、日本の新らしい教育が大地に根をおろし、日本の再建のいしずえが築かれる日がくるであらう。その日への期待の道しるべとしてこの書が何ほどの役目を果たすことであらう。また、ほんとうの愛情と理解をもつとすれば、誤解や紛争や邪惡はとりはらわれて、國境や人種やいろいろな差別を越えて正しい暖かい人間的な關係がきづかれるものであるとの、現實の證據として、豊かな人間愛の記念塔として、この書が生れたものであることも、われわれがこの書を公刊する一つの意義であることをかたく信じている。

昭和二十二年九月一日

坂 元 彦 太 郎

附 記

本書が生れるについて、會員ならびに會の關係者中、特に次の諸氏の盡力に負う所が多い。深く感謝の意を表す。

イウエオ順)

東京第一師範學校女子部附屬小學校教諭 安 藤 壽 美 江  
東京第一師範學校男子部附屬小學校主事 井 上 春 雄  
文部省學校教育局文部事務官 伊 藤 忠 二  
東京都世田ヶ谷經堂小學校教諭 遠 藤 五 郎  
東京都港區白金小學校長 大 石 謙 一  
小 澤 謙 一

東京第二師範學校男子部附屬小學校主事  
 東京高等師範學校附屬小學校教諭  
 東京都港區神應小學校教諭  
 東京都台東區育英小學校校長  
 東京都千代田區錦華小學校教諭  
 東京都港區氷川小學校教諭  
 東京都新宿區牛込第三小學校教諭  
 東京第二師範學校女子部附屬小學校主事  
 文部省學校教育局文部事務官  
 東京都中野區桃園第二小學校教諭  
 東京都港區櫻田小學校教諭  
 東京都中央區文海小學校校長  
 東京都 視 學 官  
 東京都新宿區四谷第五小學校校長

矢 矢 向 樋 皆 丸 中 飛 高 丹 管 志 佐 小 黒  
 澤 谷 山 口 川 山 谷 松 橋 治 根 波 藤 島 澤  
 基 芳 嘉 澄 正 ナ 千 早 守 祥 末 ト ミ 忠 得  
 賀 雄 章 雄 治 エ 藏 正 苗 雄 子 吉 エ 治 男

目次

序 ..... 一  
 第一章 概 説 ..... 一  
   第一節 新しい教育 ..... 一  
   第二節 社会科の作業單元 ..... 三  
   第三節 社会科の作業單元試案 ..... 五  
   第四節 作業單元の展開要領 ..... 七  
 第二章 範 例 ..... 一七  
   お百姓さん (第二、三學年程度) ..... 一七  
   —農村及びその郷土社会との關係—  
 第三章 實 踐 例 ..... 六  
   第一節 私達のおうち (第一學年) ..... 七  
   ——ひなまつりを中心に——

第一章 概 説

第二節	おみせ	(第二學年)	九六
第三節	のりもの	(第三學年)	一一五
第四節	私達の町	(第四學年)	一五六
第五節	運輸と旅行	(第五學年)	一八八
第六節	工場	(第六學年)	三六



## 第一節 新しい教育

「學習は經驗であり、經驗は學習である。」ジョン・デューイのこの言葉はわれわれ教師にとつて年毎に重要さを増して來た。學校は兒童が學校の與える經驗によつて學ぶ場である。學校の目的はもはや知的發達のみにあるのではなくて、全人的な兒童を發達させるためにあらゆる機會を與えるものでなくてはならない。兒童の圓滿な發達は、單に生活の知的な面のみでなく、身體的・社會的情緒的・精神的面をも含むものである。これからの教室は、兒童が自分に有意義な活動に参加する仕事場（ワーク・ショップ）とならなくてはならないし、このような活動によつて兒童は現在の自分が面している環境に適應するための知識、技能、能力、價值判斷力を修得するようになる。しかしこれからの學校はさらに多くのことを目的としている。即ち、社會生活の堅實な進歩と文明の發展をもたらすのに必要な能力を兒童の身につけてやることである。

どの學校でも活動を主とする、形式にとられない教育計畫をたてることが望ましいが、効果の

ある活動計畫は順序段階を綿密に計畫して始めて出来るものである。學校は兒童が楽しく、自然にいつまでも生活し學ぶところでなければならぬ。兒童はあらゆる學校活動の計畫、實行、その價値と効果の判断に積極的に参加すべきである。従つて教師の責任は兒童の指導者となり、相談役となることである。そして教師の計畫が周到で完全であればあるほど、兒童の仕事を自由に力動的に指導出来るものである。

- 兒童の責任ある指導者、相談役として、教師は次のことを注意せねばならない。
- 1 獨裁的な規則によらず、民主的な方法によること
  - 2 教室を兒童の眞の家庭たらしめること
  - 3 學校の雰圍氣を社會化すること
  - 4 兒童の参加を奨励すること
  - 5 兒童の立案と決定を認めてやること
  - 6 兒童に自分等の仕事を評價するように奨励すること
  - 7 兒童を作業單元に導入する前に充分に準備しておくこと
  - 8 學級の全兒童を含む大單元を展開すること
  - 9 出来るだけ作業單元を近隣や郷土の生活に關係づけること

- 10 その單元に教科課程の全學科を用い、兒童に技能習得の重要性を知らしめること

## 第二節 社會科の作業單元

社會科は、教科課程の中で、人間の社會的關係と、社會的態度に關係する部分である。いままで、この大きな分野は各分科、即ち歴史、地理、公民、その他多くの學科に分けられていた。今日では教科課程は兒童の要求に應ずるよう立案され、この様な分科はさして重要ではない。

社會科の主要目的は兒童に次のような事柄を習得せしめることである。

- 1 よい社會的關係に必要な態度、技能、習慣
- 2 團體生活相互の關係と責任の理解
- 3 人間と環境との關係の理解
- 4 日本の歴史と、制度の理解

- 5 世界の各民族と日本との関係の理解
- 6 民主的生活法の理解と、人間関係のあらゆる場合に喜んで民主的に行動すること

社會科の指導要領は、各學年に對して廣い經驗領域を提示している。この廣い經驗領域は次ぎのように要約出来る。

- 一年 家庭、學校および直接環境
- 二年 家庭、學校および直接環境
- 三年 郷土社會の生活
- 四年 現代日本の由來
- 五年 現代生活に影響を及ぼしてゐる科學と發明の發展
- 六年 近代世界の生活法の學び方

教師は學習指導要領の各學年の一般要領を讀むと、與えられた領域に作業單元を展開出来るようになる。いろいろな場合を考えるに當つて教師を導くものは作業單元選擇の一定の規準であるが、その要領を述べると、單元は

- 1 今日重要な意義をもつている社會生活の事相と密接な關係を保たねばならぬ。

- 2 學習する領域の重要な資料、條件、問題、および人類の福祉に對する意義がよく分かるように展開せねばならぬ。
- 3 兒童に經驗活動を豊富に與え、直接觸れ得る資料に絶えず接するようにせねばならぬ。
- 4 色々な個性やグループとして持つ表現様式を活用し、又出来るだけこの表現の機會を多分に與えなくてはならぬ。例えば、劇、工作、圖畫、描畫、模型製作、人形芝居、音樂、その他の手段による創作表現は、理解力を得る方法として、重要なものである。
- 5 つねに兒童の精神活動を刺戟するようなものでなければならぬ。このことは兒童がたえずより高い段階に目標を定め、計畫を立て、實行し、成績を判定することによつてなされるべきである。
- 6 創造のために努力する雰囲気をつくつて、つねに目的、活動、成果を分ち合うものでなければならぬ。兒童は民主的生活を學ぶのみならず實踐すべきである。

### 第三節 社會科の作業單元試案

學習指導要領を十分に研究すると、各學年に對していろいろな作業單元があることがわかる。勿論、どの教師も示されたものをすべて用いることは出来るものではない。すべてを用いようとすれば兒童に非常に淺薄な經驗を與えることになつてしまう。いま、各學年に相應した作業單元を左に示してみよう。

第一學年 家庭、學校、および直接的な生活環境

私達の家（兒童の住んでいる郷土の家庭生活）

私達の學校

私達の近所

近所の働らく人たち

第二學年 家庭、學校および直接的な生活環境

近所の生活

お百姓さん（農村の生活とその郷土との關係）

卸市場

おみせ（食料雜貨店）

ゆうびん屋さん（郵便物はどんなにして配達されるか）

### 第三學年

郷土社會の生活

火の用心（火事を消防夫はどう防いでいるか）

私達の郷土生活

のりもの（汽車と貨物の輸送）

船と港

都市の生活

原始的な郷土生活

### 第四學年

現代日本の由來（古代生活がどのように現代生活に影響をおよぼしているか）

昔の郷土生活

日本の自然資源の保存法

昔の人の旅行法

昔の人の手紙のおくり方

今日の日本の生活

### 第五學年

科學と發明の發展（どのように今日まで生活を變えて來たか）

日本と世界各國の農業

日本と世界各國の漁業

日本と世界各國の林業

日本と世界各國の鑛業

近代の運輸と旅行

第六學年 近代世界の生活の學び方（人類はどのように現代文明の恩恵を受け、又これを取り入れていくか）

工場と動力資源

ラヂオと音波による通信の發達

近代の新聞と記録の歴史

近代世界からみる古代文化

近代世界からみる中世の人々

#### 第四節 作業單元の展開要領

以下は社會科の適當な作業單元の選擇およびその展開にあたって教師の手引となる要領である。

#### I この單元の一般的價值効用はなにか

A 兒童に對して

B 民主的社會に對して

#### II この單元には次のことが十分考慮されているか

A 兒童の發達と成育

1 この單元での經驗はいかに兒童の興味を刺戟し、學習意欲を満たすか

a 兒童の興味をいかに刺戟するか

b 兒童の好奇心をいかに満足させるか

c 劇化（ごっこ遊び）意欲をいかに満たすか

d 物をつくりあげる意欲、操作する意欲をいかに満たすか

e 物や材料を分ちあい、通信する意欲をいかに満たすか

f 身體的活動意欲をいかに満たすか

- g 思想、感情を美しく表現する意欲をいかに満たすか
- 2 この單元での経験は児童の身体的、社会的、自己完成の必要をいかに満たすか
  - a 身体的必要
  - d 社会的必要
  - c 自己完成の必要

- B この單元中の経験は児童の過去の経験にいかに関連しているか
  - 1 学校外の経験
  - 2 学校内の経験

- C この單元の内容となる諸活動は更に興味と活動とを導くか
  - 1 どんな新知識が得られるか
  - 2 どんな技能が新たに強められたり、また得られるか
  - 3 どんな態度や批判力が新たに発達したり、また得られるか

- D この單元での経験は更に広い興味を導くだろうか
  - 1 将来の学校内の興味
  - 2 将来の学校外の興味

- E この單元中の経験は次のことを十分に考えているか
  - 1 興味の個人差
  - 2 能力の個人差
  - 3 グループへの社会的適應の必要
  - 4 情緒的傾向

- F この單元での團體経験はグループの民主的生活を助長するか
  - 1 どれに働きかけるか、個人に？ 班に？ 全學級に
  - 2 批判的な考え方、寛容、協同、他人の権利の尊重、其の他の態度を助長するか

III この單元中の内容には人間の基本的要求が考えられているか

- A この單元中の経験は次の主要な社會機能をいかに考えに入れているか
  - 1 生命と健康の保護保全
  - 2 資産と天然資源の保護保全
  - 3 原料の確保
  - 4 物の生産と消費および供給

- 5 物の輸送と交易
- 6 通信
- 7 社會的統制と政治
- 8 自由の擴大
- 9 教育
- 10 新知識の發見
- 11 休養娛樂（レクリエーション）
- 12 美的表現
- 13 宗教的表現

B この經驗によつて社會的洞察と社會的關心が増すか

IV この單元の取扱ひについて實際的考慮が拂われているか

- A 材料や必要な援助が得られるか
- B 兒童は同じような活動を今まで何度も經驗しているか、或は最近經驗したか
- C この單元の學習には何時間かゝるか

D この經驗は學校の現狀に照して實際的であり、價值があるか

V 學習への導入方法

- A 「現に」經驗していることから生れる興味によつて
- B 整備された教室環境によつて
- C 兒童の提案によつて
- D 教師の提案によつて

VI 學習段階の豫想

- A 發端
- B 學習環境への反應
- C その後の活動
- D 必要と欲求——内容となる經驗

VII 兒童の成長に應じて期待される經驗の成果

- A 身體的成長
- B 知的成長
- C 社會的成長
- D 情緒的成長

VII 知識や情報入手の主な源

- A 遠足や見學
- B よい説明的な材料の源
- C 書籍、歌、眼に訴えるもの、その他教育的材料

第二章 範 例

お百姓さん (第二・三學年程度)

—— 農村とその郷土社會との關係 ——



## I この単元の價值效用

### A 兒童に對して

この經驗領域を通るうちに、兒童はものの知り方、感じ方、行い方が少くとも幾分か進歩するだろう。例えば、いろいろな百姓仕事やその郷土社會への關係がよく分かるようになる。我々の日常生活にいつも用いられる食糧の生産に百姓がする多くの仕事の眞味を更に十分知つて有難く思う。道具の使用、よむこと、書くこと、畫くこと、數を理解すること話し方などが今少し上手になる。

### B 民主的社會に對して

この經驗領域を通るうちに、兒童は人間が誰もみなおたがいに他人の仕事に依存している事を理解するようになる。他人と一緒に働くこと、他人の權利を尊重すること、道具や材料を分ちあうこと、グループが一團となつて行ふ努力に満足することを學ぶ。

## II この單元には次の事が充分考慮されている

### A 兒童の發達と生育

1 この單元での經驗は興味を刺戟し、學習意欲を満たす

a この領域は二つの面で重要な要義である兒童の興味をそよる

第一に、兒童は幼時からベットとして親しんでいるから、自然に動物へ興味をもつて  
いる。兒童は馬や牛、豚、鶏、犬、その他農家にいる動物のことを讀んだり、話したり  
することを好む。こうした動物はみな動く。子供は動くものが特に好きだ。お百姓の車  
や機械は動く。だから子供はこれを話したり、讀んだり、作つたり、遊んだりすること  
が身にしみて嬉しいのである。

第二に、この領域は好奇心を満足させること、ごっこ遊び、ものを作ること、操作す  
ること、分ちあうこと、通信すること、身體活動、美的表現などあらゆる形で兒童の基  
本的な活動意欲を満たす。

### b 兒童の好奇心を満足させる

(1) 兒童は次のような質問に興味をもつだろう。

A 農家にはどんな動物がいるか。何を食べているか。どのようにお百姓に役に立っているか。  
お百姓はどのように世話をしているか。

B お百姓はどんな仕事をするか。どんな方法でやるか。何時間働くか。どういふ道具を使うか  
誰が手傳うか。

C お百姓のおかみさんはなにをするか。どこで一番働くか。

D お百姓の息子や雇人はなにをするか。

E お百姓が荷造所へもつてゆくと野菜はどうなるか。そこから野菜はどこへゆくか。

F お百姓が町の酪農工場へ送ると牛乳はどうなるか。酪農工場を出た牛乳はどうなるか。

(2) 兒童は田畑、野菜畑、酪農場に遠足する。

(3) 兒童はお百姓仕事のお話を聞き、繪を見る。

c ごっこ遊び (ドラマタイズ)

(1) お百姓の動物

お百姓の動物、例えば猫、鶏、牛、馬、犬、アヒル、ガチョウ、七面鳥、ネズミ、豚、兎、羊  
などになり、實際にこの動物達がやるように、食べたり、ねたり、立つたり、坐つたり、ねこ

ろんだり、歩いたり、走ったり、「話し」たりする。

(2) お百姓（活動はお百姓の種類によつて定まる）  
朝食前

早く起きて納屋へ行く。馬を圍いに入れる。牛にえさをやる。豚小屋のけに水を入れる。豚を柵の中に入れ、兎に餌をやる。井戸で顔や手を洗う。朝食を食べて母屋へもどる。乾草の手入れ

馬に馬具をつけに納屋へゆく。鎌をとり倉庫へゆく。草を刈る。刈りつた草を熊手で「列」を作る。さすまたで山をつくる。山を秣柵へ入れる。草を納屋へもつてゆく。乾草柵につみ上げる。

菜園の手入れ

かたい土を耕す。ウネの間の溝をほる。たねをまく。苗を手入れする。水をまく。作物を取入れる。荷造場や卸市場へもつてゆく。

羊を洗つたり、毛を刈る

羊を農場から川へつれてゆく。毛を洗うため水に入れる。鉄を入れるために納屋へつれかえる。一包つ床にねせて鉄を入れる。毛を大袋に入れてトラックで製毛所へ運ぶ。牛の乳をしぼる

乳をしぼる小屋に牛をつれてゆく。牛舎の仕切棒をしめる。乳房を洗う。乳をしぼる。柵に

入れる。器械で分離させてクリームをとる。罐に入れてクリーマリーにトラックで送る。

夕食前

馬を小屋へ入れる。暗くなる前に家畜に食事をやり、水をやる。小屋や圍いをしらべ、夕食の鐘を聞き、井戸で手足を洗い、夕食をしに母屋へ歸える。

(3) お百姓のおかみさん

家禽に餌や水をやる。日中國いに入れる。卵をあつめる。ヒナを小屋の孵卵器へ移す。一日の仕事——洗濯、食事の用意、縫物、家の掃除をやる。

(4) お百姓の息子

畑でお父さんの手傳いをする。

(5) 雇人

あらゆる仕事の手傳いをする。

(6) クリーマリーで働く人

牛乳の殺菌、冷却、びんを洗つたり乾かしたりする。びんにつめる。ふたをする。箱に入れる。小賣商やおとくに牛乳を配る。

d 物をつくりあげる意欲、操作する意欲

(1) 建物

馬小屋、牛小屋、乳小屋、穀倉、秣小屋、豚小屋、にわとり小屋、兎小屋、製粉所、百姓屋、乾草小屋、精米所、牛や豚や馬や羊を入れる圍い、クリーマリー、小賣店、町の家、その他。

(2) 農耕具

トラクター、鋤、溝堀機、播種機、耕作器、トラック、熊手、秣柵、さすまた、庭を手入れする道具、バケツ、餌入れ、乳をしぼるとき使う椅子、乳罐、ビン

(3) 其の他

e 物事を分ちあい、通信する意欲  
ビン洗い器、殺菌用タンク、ビン詰器、農園の果實と野菜、學校から農園へゆく道を示した圖

遠足後の班の討議、いろいろなお百姓仕事の繪、お話、詩、歌、それから自己の經驗を皆の前に出して分ちあう。ものをつくつたり、遊んだり、歌つたりの計畫や成績評價の時間におたがいの意見を交換する。

f 身體活動の意欲

普通のお百姓、酪農場、クリーマリー、田畑を組全體で見學する。劇(こつこ遊び)に仕組んだり、物を作つたりすることはこの項にもまた該當する。

g 思想、感情を美しく表現する意欲

お百姓の生活やクリーマリーの活動のお話を書く、簡単な詩をつくる、リズムカルにものをやる。

A 大きな牛小屋で乳をしぼる。

B クリーマリーで乳をビンにつめる。

C 牛乳を配達する。

D たねまきの順序をしらべる。

E 家禽の食餌と世話。

F お百姓のおかみさんは家の仕事——洗濯、食事、縫物、掃除に忙しい。

2 兒童の身體的、社會的、自己完成の必要をみたす身體的必要

a 身體的必要  
この年令の兒童は身體の急速な成長に步調をあわせて筋肉を發達させるために、十分な身體活動を必要とする。この單元では物をつくること、こつこ遊び、リズム運動、遠足、粘土細工、圖畫などによつて、大小の筋肉を動かすことが出来る。

この年令の兒童は過度の刺戟を避けるため、十分な休養を必要とする。このことはお百姓仕事について本をよむこと、創作、お話し共同製作、圖畫、粘土細工、唱歌、鑑賞、計畫の時間、成績評價の時間に討議することなどで目的が達せられる。このような

元氣な活動や静かな活動はお百姓の學習から自然に出て来るものであるから、この單元は兒童の身體的必要をよくみたすことができる。

b 社會的必要

この單元では協同と各兒童一人一人が價值のある寄與をなし得るような團體生活が獎勵される。各兒童が寄與することが出来、自分がグループの役に立つ一員だと感ずるよりに個人差を重んじている。

美術的才能を有する兒童には、繪をかく材料を與える。工作の好きな兒童には道具や釘や板を教室に使えるようにおいてやる。音樂的才能のある兒童は乳しぼり小屋の牛になつているとき突然「自己を發見」して歌い出す。その他、創作、音樂のような經驗を得させることが出来る。

しかし兒童はなにをやるにせよ、生活を十分に楽しむためには、他のすべての人と力を合わせなければならぬということをおぼえて学ぶのである。

c 自己完成の必要

なにかしようと思つたつてそれをやりとげると、兒童は前よりもそのグループの有力な一員となる。だから兒童を社會的に役に立つものとするためには、教師はやりたいた

選んだものをやり遂げるための兒童の努力を巧みに導いて、その全體の結果が兒童に満足感を與えるようにせねばならない。

この單元は、兒童の基本的な意欲に應えるから、グループのどの兒童にもそれ相應の方向へ目的をもたせることが出来る。教師の指導の下に兒童はめいめい自分に一番興味があるものを自由に擇ぶことを許されているから、自分で選擇して行かう機會はいくらでもあるわけである。

牛小屋を作りたければ作つてよい。誰もその兒童の能力以上に速くやらせることもよくやらせることも出来ない。兒童自身の能力が速度と成績を決定する。教師は今にも兒童が落膽してしまふなと感じた時にはじめて指導する。こうしたことの末牛小屋を首尾よく建ておおせると、兒童は内的に別人になる。即ちものゝ知り方、感じ方、行い方が少し進み、その兒童は小事ではあるが前よりもグループの有力な一員となつたのである

B この單元中の經驗は兒童の過去の經驗に關連している

I 學校外の經驗

a 兒童は大部分自分の家や友達の家や犬や猫と遊んで、動物に興味をもつてゐるだらう

- b 多くの児童は田舎の動物やお百姓仕事の話をきいているだろう
- c 多分お土産にお百姓遊びの積木をもらったものもいるだろう
- d 児童は農産物を食べているし、多分母親と一緒に店に買いにいったことがあるだろう
- e 農村に住んだことのあるもの、行つたことのあるもの、農村に親類のあるものなどがあるだろう
- f 多くの児童は両親と旅行していろいろな型の農村のそばを通つていっているだろう

2 学校内の経験

児童の背景を知るために学校内における児童の経験と記録を保存しておくべきである。

C この単元の内容となる諸活動は更に他の興味と活動を引きおこす

1 得られる知識

a 普通の農家

- (1) 動物の種類、食べたり、ねたり働いたりの仕方と場所
- (2) 農家に住み働く人々、一人一人の仕事の種類
- (3) お百姓の使う機械やトラックの種類

- (4) お百姓の家のいろいろ

b 酪農場

- (1) 牛の飼育法、牛の食べたり、ねたり、乳をしぼられる場所
- (2) 牛乳の生産と配給の過程

c 菜園

- (1) セロリーの栽培法
- (2) 摘まれてから後の過程

d 一般的な知識

- (1) 知識を得るための本、図表、繪の利用
- (2) 農村と郷土との依存関係

2 新らたに得られ、又強められる技能

- a 正しい話し方の進歩
- b 牛、犬、馬というような簡単な新しい言葉
- c 讀める語彙、讀解力、讀む速度の増加、必要に應じた讀物の選擇の技能の進歩、讀んだことを組織立てる技能の進歩
- d 計量概念、異なる長さ、大いさ、距離の間の關係の概念、出来る程度、時間の概念

(時間をいう能力が深くなる)、数の使用能力(本のページをみつける程度の熟練)、加算減算の概念と技能の進歩

- e 金槌、のこぎり、かすがい、その他の道具を使う技術、木材を使う技術、繪具や粘土やクレヨンを使う技術が増す
  - f 唱歌を澤山覚え、正しい調子で歌う能力が伸びる
  - g 書くことが前後に筋がとおるようになる
- 3 新らたに得られ、強められる態度や批判力
- a 毎日食べる普通の農産物の眞味が以前よりよく分かる
  - b お百姓と、その仕事の眞味が以前よりよく分かる
  - c 動物の生活と、動物が人間に重要なことを以前より深く考え、理解する
  - d 仲よく勉強し遊ぶようになる
  - e 仲間の問題についてよく考えるようになる
  - f 他人の権利を尊重するようになる
  - g 道具や遊び道具を貸したり、他の児童の意見を聞いたりしてお互いに協力するようになる

## D 更に廣い視野にわたる興味を導く

### 1 將來の學校内の興味

- a 卸市場の研究
- b 小麥粉、製菓業の研究
- c 郷土の研究
- d 毛織物の研究
- e 船の研究
- f 乗物の研究

### 2 將來の學校外の興味

- a お百姓を見學して學級でお話し、詩、歌などを書いた結果、物語、詩、歌をつくることに興味をもつ
- b お百姓仕事をよく知つて學級で繪に畫く結果、圖書に興味をもつ

- c グループのリズム活動からダンスに新たに興味をもつ
- d いろいろな類はそれぞれどこに成長するかを知るために話し合ったり、地図を見たりする結果、地理、歴史に新たに興味をもつ
- e 學級内での粘土細工で、粘土細工が好きになる
- f 學校内で工作をしてから、工作が好きになる
- g この學習活動の結果多分読み方や算數に興味をもつだろう

**E** 内容となる經驗には、興味、能力、グループへの適應性、情緒的傾向などの個人差が十分に考えられている

### 1 興味

この型の學習にはいろいろな活動が豫想されるから、どの日でも自分が一番好きなことをやる機会を得ることが出来る——兒童は自分で選んで物事を爲すことによつて成長するものである。例えば、兒童のもつと多くお百姓のことを知りたいという要求を満たすために、リズム遊び、ごっこ遊び、唱歌、圖畫、讀方、鑑賞教科、話し方、工作、粘土細工のような經驗が與えられるのである。

兒童は自分の好きなお百姓の建物を作るだろう。それも自分が見てこうだつたと思ふままに作るだろう。こうした選擇の自由によつて兒童は他人の權利を冒さない限りにおいて自分の興味に従つて物事を行うことが出来るようになる。

### 2 能力

この單元はゆたかな環境の中で學習される性質をもっているから、兒童は身心の能力を存分に働かせる機会をもつだろう。兒童はめいめい自分の仕事の量や型を選び、グループのサチエーションや教師の指導を得て實行に移すことが出来る。兒童はいろいろ違つた方法で自己を表現しようとするだろう。例えば、野菜園に遠足したいもの、見たものを律動的に表現したいもの、考えを繪に表わす能力のあるもの、又一方、クレヨンを使い、詩や物語を書き、歌を作り。粘土細工をするもの、いろいろいるだろう。お百姓に關する程度の違つ本が種々用意してあるから農業について知りたい兒童はいつでも讀む機会がある。

### 3 グループに對する社會的適應性

學習活動には、完遂のために小さいグループや個人の助けを必要とする大きなグループの仕事があるだろう。例えばめいめい自分だけで完全な農園を作るには時間が足りなからう。めいめい農園の小さな部分を分擔する。農園全體はこのような兒童めいめい或いは小



またグループの寄與の結果出来る。この大きなグループの遊戯活動のために児童めいめいの寄與を一つにまとめることが調和した社會生活に必要な習慣や態度を發達させるのである。活動を進めるためには児童はおたがいに意見や思いつきを交換せねばならない。何度もグループは、そのグループの仕事やめいめいの仕事を分ちあい批評しあうことができる。ごつて遊びは自分達が作ったものをお互いに分けあう一番よい機會である。児童はみんな一緒に遊ぶこと、助けあうこと、他人の持物や意見を尊重することを學ぶ。お百姓やその手傳いの人々の生活を自分達でやつてみるにより、児童は遊びをたのしくやつてのけ満足するためには互いに協力しなければならなくなる。

#### 4 情緒的傾向

この學習には安定感の個人差が十分に考えられている。重要なことは教師が児童がめいめいの能力にふさはしい仕事を選ぶように指導することである。このことは児童が自分でできそうにもないことをもくろんで横道にそれることを防ぐことになる。例えば安定感をもち、長時間一つ活動を続けることの出来る児童は、牛乳小屋や牛小屋製作というような困難な仕事をする事が出来る。この學習は児童の能力と興味によつてなされるものであるから、適當な指導によつて、児童は學習や遊びを首尾よくやつてのけることができる。

### F 内容となるグループの經驗はグループの民主的生活を助長する

#### 1 個人、班、全學級の民主的生活を刺戟する

#### 2 批判的な考え方、寛容、協同、他人の権利の尊重、其の他の態度を助長する

お百姓の學習はグループにも、グループの中の個人にも選擇の自由を與える。グループは學習の始めに農園についてもつとよく知ること、自分達の農園をつくることなどを選択際には自分の作りたいものをつくる自由が與えられている。自分から進んで選ぶうちに児童の選擇の自由は發達し、選擇の自由によつて賢明にえらぶ能力が發達する。この二つの態度は共に児童が社會のよりよき一員たるために缺くべからざるものである。

この學習活動はゆたかなそしていろいろな環境の下で行われる性質をもっているから、學校の児童はめいめい自分の能力と發達に應じて選擇出來、選擇することによつて成長する。例えば遠足で見た牛乳小屋の繪に色をつけたいと思う児童は教室に繪具、書用紙、繪筆などの道具を見つける。こうして色をぬり、その後酪農場を見學すると少くとも三つの點が進步する。繪をかくためには建物ややつていたことなどはつきりした心像を得ねばならないから、牛乳小屋でのいろいろな活動を前よりよく知るようになる。自分で繪を畫

いた結果、自分より上手な児童の繪をもつと十分に鑑賞出来るようになる。繪をかき上げるころには多分繪筆の使い方、色の配合、構圖などが上手になる。

學級遠足で見たり、教室のお百姓の繪本などで読んで面白かつた仕事や場所をお話や詩歌に書きたい児童はいつでもそうすることが出来る。教師は児童が必要なとき、いつでもよろこんで児童の理解していることを用いて指導する。

手工を好む児童は遠足で見たものや本で讀んだものを作るのに、道具や材料を使うことが出来るようになっていく。その他の創造経験はこつこ遊びやリズム遊びの形で與えられる。

この單元の學習はゆたかな環境の下で行われる性質をもっているから、児童は自分の身心を思う存分働かせることが出来る。やりたいと思う仕事の量や型を選べば、自分の選擇したものを實行する全責任はその児童にかゝつて来る。グループからサジェスションを受けた後は自分が表現したいと思う思いつきをどのように具體的な形に現わすか自分自身で定めねばならない。こうして自分で自分のことを決めることに責任をもつて考えることを發達させるものである。児童は経験や教師の指導によつてあらゆる場合を考え、あらゆる點に立つて判斷し、假の結論をもつようになる。このようにしてグループのどの児童も責

任感が發達すると、新しい民主主義社會の有用な一員となる。生來の能力や欲求が教室で發達する機會が與えられるから、このような才能が發達せずにとりのこされている場合よりはもつとゆたかに児童は社會に貢獻することが出来るだろう。

教室環境の要素がこのようであるから、小さいグループの活動を完成のために必要とするような大きなグループの仕事を引きおこすだろう。普通農場はとても大きなものであるから、小さいグループや児童めいめいが力をかさなくては全體にわたつて取扱うことは不可能である。例えば、どの児童も自分だけでは完全な農場を作る時間はないから、グループの幾人かが一緒になつて自分の好きな農園のものを選んで作るようになる。遊び時間に自分の作っているものや、出来上つたものを遊び場へ持つて来る。遊びに持ちよつたすべての材料が農園を完成する結果になる。

勉強時間に、児童はグループの者の前に自分の工作の問題をもち出して解決に全員の協力をあおぐ。また逆に他の児童の困難にサジェスションを與えることもあるだろう。

この民主的な思想や材料の分ちあいは児童一人一人に、責任をもつて考えること、寛容、協同、分ちあい、他人の権利の尊重等の態度を發達させるのに役立つだろう。

### III 人間の基本的要求が考慮されている

#### A 内容となる経験には次の主要社会機能を考慮してある

- 1 生命および健康の保護と保全
  - a 農園にいる動物の労働能率に及ぼす適当な食餌の影響
  - b 牛の定期的な医学的検査
  - c 牛乳の殺菌
  - d 搾乳前の牛の洗濯、牛舎の清掃と蠅の駆除
  - e 人間の食事における蔬菜と牛乳の重要性
  - f 菜を病菌から防ぐための撒薬
  - g 教室内の道具や器具の安全な用法
  - h 教室内の適度な明度、通風および温度の保持
  - i 児童に應じた椅子や机の高さ

- j 教室内における應急處置の設備
- 2 資産および自然資源の保護と保全
    - a 増産をはかるための農土の肥料
    - b 農機具やトラックの検査と修理
    - c 蔬菜を病菌から防ぐための撒薬
    - d 灌水の用意
    - e 教室の材料や、他人の持ち物をグループ全体で注意する
- 3 原料の確保
    - a 小麦および製粉業の研究
    - b 羊毛業の研究
    - c ミルク工業と乳製品の研究
- 4 商品の生産と消費、および送達
    - a 牛の食餌や搾乳、牛乳の殺菌と罐詰、都市への牛乳の配達、店での牛乳の購買
    - b セロリーや他の蔬菜の成長、小賣店での買入れ
- 5 輸送と商品の交易

- a 都市の民家および小賣店への牛乳の配達
- b 蔬菜をトラックに積んで卸市場へ輸送する、蔬菜を小賣商は自分の店に運ぶ
- c 豚や羊をトラックに積んで農園に運ぶ、それから家畜收容所に輸送する

## 6 通信

- a ラヂオや新聞の天気豫報の外に、主題範囲においては、この作業單元は通信について餘り考慮しない、しかし児童は教室内で御互に交換したり通信したりする機会が多い

## 7 社會的統制と政治

- a 製産物を放り上げるので、トラックの速度を制限する法律がある
- b 定期的牛や農産物の検査、牛乳取扱上の衛生、牛乳の質と純度の検査標準等に関する法規
- c 絶えず撒藥してセロリーの病害の繁殖を防ぐこと
- d 農産物を取扱う人々の賃金と労働條件に関する法規
- e こつこ遊びや他のグループ活動に関するクラスの規則

## 8 自由の擴大

- a 小數の農家で、最良の作物を増産するための農場の科學的改良、農家および雇傭人の勞

## 働時間の短縮

- b 教室内の各児童の自由選擇と方法の自由
- c 児童は興味追及の機會をもち、自分の才能を發揮し得る

## 9 教育

- a 牛乳の價值と食卓に運ばれる蔬菜に関する知識
- b 農家は雜誌によつて科學的な農耕法について絶えず學ぶことが出来る
- c 農園の研究により児童は知識、成績および行動に變化をきたす

## 10 新知識の發見

- a 他の人々、例えば農家や使用人の生活に関する新知識
- b 牛乳や家畜の食餌——例えば搾乳殺菌、ビン詰など——の取扱に関する科學的發見の重要性にたいする知識

## 11 レクリエーション

- a 農耕法の改良により農家の労働時間の短縮
- b 勞働法の改善は、農園で働らく人々にレクリエーションの時間を與える

## 12 完美的表現

a 次に示す活動は兒童に審美的表現の機會を與える

圖畫

粘土細工

農園の構造製作

農園遠足について物語を作ること

### B 内容となる経験は社會的洞察と關心を増進せしめる

この學習によつて社會的洞察と關心を増進する最もよい機會がえられる。お百姓の勉強により、兒童は農耕に關係のある各層の百姓の活動と農作物の取扱いとの間多くの連關を知るようになる。これを知ることによつて、民主的社會における各個人の仕事と價值、さらに人間の基本的要求をみたすために我々を助けている各個人の重要性の認識理解が發達する。このことからこのような仕事に影響をおよぼす條件の改善の必要の理解が伸びるのである。同様に、ごっこ遊びで百姓生活をする事によつて、兒童は團體生活をよりよくするため各個人の寄與の價值を理解するようになる。さらに計畫したり批評し合つたりする間に、兒童はお互いに問題を解決し、共に仕事をする事によつて、團體の協同の價值を理解するようになる。

## IV 實際的考慮が拂われている

### A 材料や必要な補助が利用できる

- 1 農園活動に關する本を學校内で用い得る
- 2 本や雜誌にある農園の繪を用い得る
- 3 よい教育的映畫
- 4 學校の近くの畠
- 5 近くの乳酪製造所
- 6 學校から數哩離れた豆やセロリーの畠
- 7 農耕に關するよい歌を利用し得る
- 8 工作時間に用いる道具や材料を補給し得る
- 9 學校は、繪具、畫用紙、クレヨン、鋏、粘土、糊、鉛筆、物差等の必要な材料を補給する

10 學校は學習に適する日本および世界地圖を用意しておく

B 同じような活動が、今までに経験され、また最近経験されたことがある

兒童の今までの活動記録は、この質問に答えるに役立つ

C 内容となる経験に費いやされる時間

時間の決定は一年中の仕事を決めるのに大切なことである

D これらの経験は、學校の實情に即して、實際的であり價值がある

1 學校から數マイルの所に、普通の畑があり、酪農場や、クリーマリーがあり、セロリーの畑がある

2 教室は活動をするに十分な廣さをもっている

3 必要な學習教材は活動のために利用出来るようになってゐる

## V 學習へ導入する方法

A 「現に」経験していることから生れる興味によつて

第一學年の郷土生活の勉強から八百屋の食料品はどこから來るかを知る必要が高まつてくるこのような必要が自然にお百姓の勉強へ導く。

B 整備された教室環境によつて

これはお百姓について意欲を起させるために選ぶ方法の一つである。こゝで教師は兒童の基本的な意欲を満足させると信ずる領域をえらぶ。それから各兒童に興味を興えるように、ゆたかな變化にとんだ環境を整備する。兒童は環境と相互に作用するものであるから、兒童の興味を入念に觀察する。大きなグループに共通と思われる興味にしたがつて、二三日経つたら教室環境を再編成する。兒童が自分達の経験を大いに分ち合えるように好んで興味の共通の中心を設定することである。

C 兒童の提案によつて

學校の第一日目の相談の時間に、一人お百姓のおぢいさんのところへ行つたことを話す兒

童がある。その子は自分がみたあらゆる動物について話すだろう。翌日教師はお百姓の動物が食べたり休んだり、働いたりしている絵を教室に環境整備の手段としてもちこむ。こゝから學級は普通のお百姓の勉強に入ることが出来る。

#### D 教師の提案によつて

前年度の二年生は恐らくお百姓を學んでいる。そのとき一年生だった児童はこのことをきき、つくられたお百姓の建物や面白いかわいい動物を見た。そして來年は僕等も農場をたてたいとよく言っていた。そこで二年生の第一日に教師は「よかつたらお百姓を勉強しましよう。去年、二年になつたら農園をつくりたいつていつてた人がすいぶんいたね」という。第一日目にお百姓の勉強の環境が出来上がる。

(註) 以上の四つの方法はいづれも常に整備された環境の下に行われねばならない。あまり教師の指示なしに児童が自然にある経験段階へ入つて行くから。AとBが最も好ましくまたよく用いられる。

## VI 學習段階の豫想

#### A 庭端 (整備された環境によつて)

庭の隅の本を讀むところにはお百姓についての参考書がならべてある。圖書館には次のような繪が八枚つんである。(どの繪にも裏に説明がついている)

- 1 乾草を大きな納屋に入れるところ
  - 2 鶏に餌をやるところ
  - 3 耕やすところ
  - 4 手で牛乳をしぼるところ
  - 5 菜を摘むところ
  - 6 豚が圍いで物を食べているところ
  - 7 親牛が子牛を育てているところ
  - 8 納屋のあたりをひなが親鶏と歩いているところ
- 小こ子をのせる臺には、次ぎのような繪がある。
- 水 畫三葉

- 1 農夫が畑で麥を刈つているところ
- 農夫が牛をまぐさ小屋に呼び入れているところ

3 農夫が乾草を馬小屋の乾草棚にあげているところ  
寫五枚

1 農夫が野菜の種を播いているところ  
2 お百姓のおかみさんが鶏に餌をやっているところ  
3 お百姓が牛の乳を搾っているところ  
4 馬が乾草を積んだ車を牛の圍柵場へ運んでいるところ  
次のような玩具が教室に列べてある。

- 1 農夫が野菜園で草掻きをしているもの
- 2 親鶏とひな、七面鳥、三羽のが鳥、犬、柵越しに眺めている牛などのいる納屋の庭先きの光景を示す玩具

教室の一方の隅に、一軒の都市の家と、一年生のおときに作った小賣店が陳列されている。  
次のような遊び道具がもう一方の隅にある。

- 1 手車
- 2 乾草をのせる荷車
- 3 牛五頭、馬五頭、豚四頭、鶏五羽
- 4 小箱十個

- 5 乾草の數捆
- 6 小さい建築材料の一組
- 7 小さい人形の箱一個

#### 學習室（作業室）

- 1 いろいろな型と大きさの小箱數個
- 2 大箱四、五個
- 3 長さや幅のちがう木片合釘棒をかける木製の架棚
- 4 道具（ハンマー、ノコギリ、カスガイ、ナイフと釘等）

#### B 學習環境への反應

兒童は第一目に教室へやつて来て、入るとすぐ教師の前の床にグループになつて坐る。仲良くなつたため、形式ばつた態度を破るために、教師は兒童が自分達の経験を話しあうようにしてやる。まもなく教室の繪や並べてあるものごとを話しあう兒童が出て来る。休暇中にお百姓の建物を見てきたものがあり、繪と同じような動物を家で飼つたり、みたことのあるものがある。

もう一度いつしよに集まつて見たものについて話し合う約束で、しばらく教室環境を探險



させる。

教室を歩きまわつて、繪や本や模型を調べるにつれてだんだんとても面白くなつて来る。小さなグループになつて話しあう。話しあつたり議論している中にいくつか疑問が起つて来る。児童が疑問や意見をもつて來たら、教師はその問題を後で組の者が全部いつしよに集まつたとき全級に紹介するように頼む。

十五分位このような探險をさせてから、教室の前の方へ歸つて教師の前へ坐らせる。児童は熱心に繪や見たものについて發表したり、話しあう。グループから満足な答えのある疑問もあり、後のディスカッションにゆずられる疑問もある。

お話を讀んでやる。お話をよむ前に、お話の中の繪をみせてお話しに入る参考にする。それから教師は誰か教室にあるもので遊びたくないかたずねる。手をあげる児童がある。(△  
|| 教師 × || 児童)

△ 何んで遊びたい？

× あそこのトラックで。

× 動物や人がいるよ。(指差す)

△ さうだね。それからあつちの隅の方に、トラックやお百姓の物を作るのに必用な木の箱もありま

すね。

グループの五人が遊ぶ。残りの児童はテーブルの方について、讀んだり繪をかいたりする。十分後に鐘がなり、全員圓陣のところについて他の児童と、自分らが今何をやってたかを知らせあう。小さいグループで、どんな遊びをしたかを中心に話し合う。

△ 自分のやつたことについて話したい人はいませんか。

× 私は鶏遊びをしました。とても面白いです。

△ 鶏はどうするの？

× 走り廻るの。

△ (全體に向つて) 皆さんは、お百姓の鶏がどういうことをするか知っていますか。

× 卵を生みます。

× ものを食べます。

× コツ、コツ、コツとなきます。うちのおばあさんは鶏を飼っています。

△ お百姓屋では鶏をどこで飼っていますか。

× 鶏小屋。

△ (同じ児童に向つて) 鶏小屋は、どんな恰好をしてるか、いえますか。

× 大きくないけど、細長いです。

△ 普通鶏は家の近くにいますか。

全員 さうです。

- △ どうして家の近くで飼つてゆるのですか。(全員しばらく黙っている)
- × 鶏小屋の周りには柵があります。
- △ 他の人は今朝は何をして遊びましたか。話して下さい。
- × 木片で大きなとても大きな高い家を作りました。
- △ どんな家ですか。
- × わかりません、たゞの家です。
- △ ずっと、そればかり、やつていたの？
- × そうです。
- △ 馬は家を作りますか。
- × いゝえ、馬は働らくんです。
- △ どんな仕事をするのですか。
- × 物を引つばります。
- △ 馬は、しよつちう働らくのですか。
- × いゝえ、食事もします。
- △ どこで？
- × 馬小屋です。

△ だれか、もつと話したい人はいませんか。

(机で繪を畫いていた児童の一人が急いで繪をくばる。全員休憩)

△ (教室にかえるとまた圓陣になる。休憩時間中に木挽臺を教室の周りにおく。道具棚の戸を開けてお

△ けさ早く、道具や木片や箱があるといつた人がいましたね。使いたい人。

× 何んでも作りたいものを作つていいですか。

△ え、何んでも好きなものを作つてごらん。しかしけさは、お百姓の動物に必要な建物を、作ろう  
ではありませんか。どんな建物でしょうか。

× 鶏小屋です。

× 馬小屋です。

(教師は黒板に次のように書く)

作るもの

鶏小屋

馬小屋

△ 鶏小屋や馬小屋が出来ると鶏や馬で遊ぶのはとても面白いですね。

× えゝ。

△ けさ、木で物を作りたくない人は、本を讀んだり、繪を書いて下さい。

大人の児童が木をつかつて仕事をする。大部分の児童は机で繪を書いている。数人の児童は本を讀んでいる。木をつかつて仕事をしている児童は、次ぎのようなことをしている。

三人の児童は 飛行機の製作

二人の児童は 小屋の製作

一人の児童は 鶏小屋の製作

一人の児童は 船の製作

三十分後に合圖をして、仕事をやめて全員を圓陣のところ集める。三十分間にした作品をもつて集めるようにする。

△ だれか馬小屋を作つた人はいませんか。(二人の児童が手をあげる) みせて下さい。(みんなにみせるため太郎次郎が箱を皆の前におく)

△ この馬小屋は、どうですか。

× 私のみた馬小屋には、上げたり下ろしたりするかぎがついていました。

× 戸が小さすぎます。馬小屋の戸は大きいです。

△ あす馬小屋の繪をみるといいね。

全員 ええ。

(船を作つていた児童が急いでそれを見せる。一寸の間、それらについて話し合う)

△ 太郎君、君のはなに? 君の作つてるのを見せて頂戴。随分、一生懸命に作つてるようだね。

(太郎はとてもハニカミ屋なので、教師は林檎箱の一個所にドアをつけた箱をとり上げる)

× それは何に?

△ 太郎君、何に?

× 鶏小屋です。

△ 鶏小屋と馬小屋と同じ大きさですか?

× 違います。もつと小さいです。もつと小さい箱で作つた方がよいのです。

△ あす、鶏小屋の繪を見た方がよいですね。

(急いで自分のかいた繪を見せ、本にかいてあることを話す児童もある。晝食のベルが鳴り、食事休みとなる)

### C 學習活動の展開

(必要と欲求)

鶏舎や馬小屋について知ろうとする。

(内容となる経験)

鶏舎や馬小屋の寫眞を見る

その活動を示す繪を見る

児童は自分らの考えを話し合うことにする。百姓屋には馬小屋が

あるものだから、それについていつしよに勉強するように決める  
鶏舎や牛小屋を見に遠足をする。そしてお百姓がどうゆうふう  
に馬や鶏の世話をしているかを見る

鶏舎や馬小屋の活動状況を示した掛圖になつた物語を読む

お百姓に「お禮」の手紙を出す

「お禮」の手紙を書くのに、字がむつかしいことがわかる

お百姓から親鶏とひなを二羽貸して貰う

お百姓屋でみたものを繪にかく

お百姓のおかみさんが、鶏に餌をやつたり、水をやつたりするこ  
とをリズムカルに表現する。例えば鶏が餌をたべたり、横になつた  
り、卵を産んだりすることや、馬が歩るいたり、走つたり、食べた  
りするようなこと

鶏や牛の歌を歌う

教師がお百姓生活についてお話を読んでやる

鶏舎や馬小屋を作る(三人ばかり)。二人はお百姓のところでもた

ような小屋の圍柵場のさくを作る。女の兒が二人

第一日目 町の家にそなえつける家具を作る。五人は船とトラッ  
クを作る。(計畫の時間にも批評の時間にもこれには満足と與えて  
いない) 十二名は、まだ机で本を読み繪を書いている。

十人は最初の日には、教室の玩具で遊んだり、すっかり出来上つ  
ている。鶏の玩具や馬小屋で遊んでいる。(飛行機や船の遊びもあ  
るだろうが、この興味には遊びの時間についての話しあいでは満足  
を示してやらない) 遊びの間に 三人の兒童は五頭の本の豚の廻り  
に木で輪を作る。

遊びは経験の項にはただ一つしかあげてないが、毎日行うのである。ここにのべた遊びの時間は、次ぎの  
「主な欲求」から起るのである。

豚のいるところについても  
つと知ろうとする。

お百姓の豚についていつしよに話し合う

家や、圍さくや、たべものおけの繪を見る。おけがどういうふう  
に並べられているか、それは、どんなことをするものか、について  
観察する

豚はどうして生活し、どうゆうふうで農家に役立つてゐるかについて、掛圖になつた物語を読む

豚の食べものの種類や、どうゆうふうで成長するかについて讀む訪ねていつた農家でみた豚（或は、その他見たもの）についての短い話を教師が話す

豚が食べたり、歩いたり、掘つたり、嗅いだりする有様をラズミカルにやる。農家が豚に餌をやり、市場用のトラックに駈けのぼらせ、市場にもつてゆく

いろいろなことをしている豚の繪をかく。生きている豚を見て、豚の體の比率をもつとよく知る

教師は豚の話を讀んでやる

豚の圍いや小屋や食餌おけを作る（五人以上の兒童）

作業中には、ノコギリ、ハンマー、かすがいや支柱の正しい使用法について話し合う

農園をつくるのに必要な材料について話し合う。一人の兒童は馬

農園では 牛はどこでどうして住んでゐるかを知らうとする。

小屋に牛を寝かすためにつれてゆく

牛について話し合う。牛の食べ方や寝かた働き方を見るために酪農場を訪ねていくのが一番よいと話がきまる

a 一人の兒童がある酪農場を提案する。

b 各兒童とも、酪農場までの道順を示して簡単な地圖を作る。

c 遠足でみるべきものについて相談をよく聴く。

d 遠足の許可を家庭から得るため短かい手紙をかく。

e 遠足をする。観察事項は

(1) 圍いの設計、牝牛と、牝牛と、子牛の圍いの大きさ、食餌おけの形

(2) 小屋の形、子牛の小屋と牛乳搾り小屋。

(3) この二つの小屋でやる活動。特に牛乳搾り小屋での活動。

(a) 牛が、ゆつくり小屋の入口から大きな乳搾り小屋の仕切に歩いてくる。

(b) 乳搾人が仕切を閉める。

(c) 牛の乳房を洗う。

(d) 乳を搾る。

(e) 牛がゆつくり囲いのところへもどる。

(4) その他の主なる酪農場の建物、およびそれに関係のある活動、乾草小屋、穀倉、クリームを作る小屋。

(5) トラクタの種類と、酪農場における其の他の器具、小屋から柵内の食餌槽へ乾草を運ぶトラクタ、穀倉から搾乳小屋の槽に穀物を運ぶ袋、町の民家へ牛乳を運ぶビン、トラクタから乾草をおろす振又、ホース、搾乳器乳入れのバケツ、乳を取扱ふときに必要な罐やビン、ビン洗い、クリーム製造のための殺菌、冷却、容物のタンク。

遠足中に見たものについて短い話をする

それらのある物について繪をかく

牛の種類、乳の種類、牛の食餌の種類、食物は、どうして出来るか食物は農園のどこに保存してあるか、もつとも大切なクリーム製造の活動について、掛圖に書いてある物語を読む

これらの活動、特に小屋にいる牛の搾乳や牛乳をビンに詰めることを、リズムカルに現わす

「遠足許可證」を書くのにむつかしい言葉を學ぶ

お百姓生活に因んだ歌を歌う

牛についての、教師の話聴く。全體の兒童に向つて一人一人の兒童が、

大きな聲で読む

次ぎのものを作る

搾乳小屋、干牛小屋、乾草小屋、穀物小屋、クリーム製造室、牛乳運びのトラクタ二臺、牡牛や牝牛や小牛を入れるさくのある圍い。

(三人の兒童以外は全部、農園の材料を作つている。飛行機や船をつくるものがないくなる)

初日に遊んだ材料で遊ぶ材料が出来る。次のような新らしい教材を教師が持つてくる

牛乳ビン 二ダース

牛乳罐 一本

牛乳罐箱 十五個

乾草の捆 十個

遊んでいる間に一人が、そんなに牛乳をとる家はありませんといい

もつと澤山、都市の建物を  
作る。

都市の建物の形式について話し合う

もつと異つた三種類の家があると決める

三人の女兒が、遊びをもつと愉快にするため、進んでこれをつくらうと申し出る

遊び。田舎にはトラックがあるから、それをしまうガレッチがある筈だと一人の男兒がいう。お百姓屋にも兎がいなくて？ だつてあたしのお祖父さんのところには、いるんですもの、と女兒がいう。

農家では一日中働きますか、と教師がたずねる。夜、寝るのに家が  
必要だと全員がいう

ガレッチと、兎小屋と農家

とを作る。

これらの建物の繪を見、話し合う

兎の生活について掛圖に書いてある話を読む

兎の手入れ

兎がカゴの中で、躍んだり、食べたりすることを観察する

兎が食べながら、躍んだり、はねたりする有様をリズムカルに表現する

兎の歌を歌う

兎の物語を聴く

遊戯。教師は遊ぶために、粘土で出来た兎を七羽、教室におく。教師は兒童に、あちらの隅の方で、乳搾り小屋を通つたとき、何にを  
していたかとたずねる。庭の草を抜いたと答える

掛圖をよんでお百姓の園藝の大部分は大きな野菜園でやることだ  
ということがわかる

豆畑やセロリー畑へゆく

圖を読んだり寫眞を見て、野菜作りの順序がわかる

畑を掘りかえす、土をならす、溝を作る、種をまく、水をまく、肥料を  
やる、水をやる、草をぬく、取入り、箱に詰める、トラックで市場に運  
ぶ。

この順序をリズムカルにやる

畑の道具を作り、畑をつくる

トラクター、すき、溝をつける機械、草掻き、野菜類

畑から採った野菜はどこへ  
持ってゆかれるか。

遊戯。教師はグループで遊ぶために玩具の野菜箱をもつてくる。遊  
んでる間に、野菜箱はどこから持ってくるんだらう、という質問が  
出る

野菜は普通、卸市場に持ってゆき、八百屋に賣られることが、掛圖  
に書いてある話を読んでわかる

卸市場と八百屋の寫眞を見る

卸市場を見學する

卸市場について教師が語を讀むのを聽く

市場に野菜を運ぶところや、八百屋に野菜を買いにくる人の繪を描  
く

畑や市場でトラックに積んだり、下ろしたりすることをリズムカル  
にやる

卸市場を木で作る

遊戯

この單元は容易に他の重要な小麥畑の學習に移ることが出来る。また製粉業や製菓業がこゝで

自然に考えられて来る。

## VII 兒童の成長時期に照して期待する經驗の成果

### A 身體的成長

- 1 大筋肉および小筋肉の發達を促す
- 2 筋肉の協調作用を促す

### B 智的成長

- 1 お百姓やその動物の仕事、およびどんな方法で郷土につくしているかをよく理解するよう  
になる

- 2 讀書、綴友、圖畫、唱歌、工作、リズムカルに物を作る能力の發達を促す

### C 社會的成長



1 次のような社会的態度が出来る

責任ある物の考え方、寛容、協力、分配、他人の権利の尊重、選擇の自主性、賢明な選擇  
一度選ぶとそれを完成するまでやるような態度。

#### D 情緒的成長

1 安定感がます

2 自信が付き、主動性がつくようになる

### VIII

主なる知識のよりどころについて纏めるようになる

#### A 遠足をする

鶏、豚、馬、牛、および農家の建物のある一般的農園、製酪装置のある大きな酪農場、蔬菜を  
作っている二三の大きな農場。

#### B よい説明的材料の據りどころ

製酪業に關する教師および兒童のための簡単な讀み物。圖畫に使ういろいろの色繪具や色鉛筆  
の類。  
映畫も利用される。

第三章 實踐例

第一節 私たちのおうち (第一學年)

—— ひな祭を中心に ——

I 単元の一般的價值効用

A 兒童に對して

- 1 楽しい行事を通じ家庭生活の一面を知ることが出来る
- 2 「ひな祭」を通して、自然と人生との關係を知ることが出来る
- 3 「ひな祭」を通して、美しい傳統を知ることが出来る

- 4 「ひな祭」を通して、価値ある家庭及び社会の一員たることを知ることが出来る
- 5 「ひな祭」を通して、季節的關心を高めることが出来る
- 6 「ひな祭」を通して、歴史的關心を高めることが出来る
- 7 家庭生活を楽しくする工夫をすることが出来る
- 8 家族や、親類知己の温い、行爲や配慮を感じる事が出来る
- 10 いろいろな創造的表現能力が養われる
- 11 よい行儀作法を學ぶことが出来る
- 12 美しいかざりつけをしたり、家を綺麗にすることを覚える
- 13 物を大事に取扱つたり保存したりするようになる

## B 民主社会に對して

- 1 家庭生活を如何に民主化するかを學ぶ
- 2 楽しい明るい民主社会の姿に觸れることが出来る
- 3 他人の権利や我儘や見解を尊重することが大切なことを得る
- 4 協同の精神を體得することが出来る

## II この作業單元は次の事柄が考慮されている

### A 兒童の發達と成育

- 1 興味を刺戟し、學習欲を満たす
  - a 思想感情を美しく、創造的に表現する意欲を満たす  
作歌作曲、圖畫、劇など
  - b 人形を作つたり、ごちそうを作つたりする機会がある
  - c 行事に對する興味を刺戟し、學習に對する意欲を増す
  - d 意見を交換し、物を分ち合う
  - e 手紙や通信によつて、自分の感情を伝える

- f 案内状をしたためることによつて、手紙を書く様式を知る
- g 外國の人形を調べ、外國に對する關心を高める
- h 昔の人形を集め、古代人の生活を知り、古代に對する好奇心を刺戟する
- 2 兒童の身體的、社會的、自己完成の必要を満足せしめる
  - a 音律的動作や優雅な身ごなしにより 調和的身體の發育をなすことが出来る
  - b グループ活動や、お客ごっこ、或は「ひな祭」の會を通じて民主社會の生活の必要を知る
  - c 以上の經驗を通し、一つ一つ仕事を完成することにより 圓滿なる自己が完成されてゆく

**B 單元中の經驗は兒童の過去の經驗と密接に關連している**

- 1 學校外において
  - a 家庭で既に今までに「ひな祭」を經驗している
  - b 友達の「ひな祭」などに招かれて行つたことがある
  - c 「ひな祭」においてなされる諸活動を既に經驗している

- (1) かざりつけの手傳い
- (2) 人形遊び
- (3) ままごと
- (4) お客遊び

**d 「ひな祭」と共通な活動を、他の行事で既に經驗している**

- (1) 友達や近所の人との交際
- (2) 友達との協同作業

**2 學校内において**

- a 既に「たなばた」「端午節句」「クリスマス」などの行事を經驗している
- b 單元による學習を既に一年間經驗しているので、兒童は親しみと氣易さをもつて自信ある學習經驗をすすめると思う

**C 單元の内容となる諸活動は更に興味と活動を導くように出來ている**

- 1 新知識として次のことが得られる
  - a 昔の宮中の生活を知る
  - b 人形の歴史

- c 物の保存
  - d 桃の咲く頃の季節（春の氣候）
  - e 年中行事の意義（特に五節句について）
  - f 着物（和洋）とその着せ方
- 2 技能や技術として次のことが得られ、さらに強化される
- a 人形作り
  - b かざりつけ
  - c ポスター作り
  - d 料理や菓子を作ること
  - e 手紙の書き方
  - f 歌を作ること
  - g 圖畫をかくこと
  - h 童話を作ること
  - i 話しすること
  - j おどること

- k 物を敗えること
  - l 物を讀むこと
- 3 態度や批判力として次のことが體得され、さらに強化される
- a 他人の權利、感情、思想、意見を尊重する
  - b 他人の意見を批判する
  - c 他人と協力することの重要性を知る
  - d 楽しい生活を送るにはどうすべきかを知る
  - e 好意とか、禮儀が社會生活には必要であることを知る
  - f 他人のために爲すべきことを覺らせる
- D 單元中の經驗（授業）は更に將來も各種の興味を引きおこす
- 1 學校内において
- a 自分たちの力で學藝會を計畫し、實施するようになる
  - b 「きもの」の歴史に興味をもつ
  - c 外國の人々の服裝について知りたくなる

d 外國のいろいろな祭について調べたいと思う  
e 春先の自然現象について調べる

他えば春の植物、花、野菜、氣象など

2 學校外において

學校内とほぼ同じ興味を展開するであろう

a 毎日の料理について

b 部屋を美しくする

c 家族の着物の種類

d 着物の保存

e 訪問者にたいする挨拶

f 電話などのかけ方

g 家庭生活に必要な設備、家財、什器、家具などについて認識を深める

E 単元の内容となる経験は、生活のあらゆる面に亘つて考えられている

1 兒童の興味及び能力の差を十分に伸ばすことが出来る。人形作り、作歌、作曲、劇化、さ

し畫などにより

2 グループ學習がなされる

3 協力的態度が育成される

4 美的情操および優雅な感情が涵養される

5 圓滿な家庭生活の営みがなされる

6 精神的安定感が得られる

F 単元の内容となる経験は兒童のグループ間で行う民主生活を助長する

1 協同

2 寛容

3 他人の権利、思想、感情の尊重

4 責任

5 批判力

6 自恃（獨立）

7 自由

III この單元は人間の基本的要求が内容として考慮されている

A 社會的機能についての考慮

1 健康の保護保全

a 健康を保つに必要な食事の問題

b 健康を保つに必要な衣服の問題——この頃から衣更えがなされる

c 健康を保つに必要な住まいの問題——換氣、日光、暖房などについて

d 身體の安全を護るための方法——交通上の注意や、室内のあと片づけなど

2 生活の計畫を立てること

a 規則正しい生活をする事

b 物の生産や消費について注意するようになる

3 社會的活動について氣がつくようになる

a 友達同志仲好よくなる

b 親戚や知己や近所の人々と親しくなる

c 家族の人々が楽しく、明るく共に暮らすようになる

(i) 協力

(2) 家庭の人々の信頼

(3) 禮儀

(4) 服従

(5) 利己的でないこと

(6) 秩序、整理、清潔

4 持物の保存について關心を持つようになる

a 家庭や家具の保存や手入れについて知る

b 着物の保存や手入れについて知る

c 道具や人形などの修繕や手入れ

d 後片づけを注意深くする

e ポロ布や空罎、屑ゴム、古雑誌などを大切にするようにする

5 生産、分配、消費、運輸などについて關心を持つようになる



- a 菜園の野菜について關心を持つようになる
  - b 配給品について關心を持つようになる
  - c 家庭生活において用いられるものについて關心を持つようになる
  - d 生産物が、どういうふうに使われるかについて關心を持つようになる
  - e 人形を作るのに必要な生地にはどんなものがあるかについて、關心を持つようになる
- 6 通信に關心を持つようになる
- a 招待状を書くこと
  - b 電信 電話による通信
  - c 新聞、雑誌、ラヂオ等に興味をもつ
- 7 美的表現に關心を持つようになる
- a わたしたちの家を美しくするにはどうすればよいか
  - b 美しいものを見る(展覧會、よい景色)
  - c 美しいものを聞く(音樂會にゆく、ラヂオやレコードをきく)
  - d 心を美しくする(美しい人々の行爲についてきいたり、話を讀んだりする)
- 8 レクリエーション

- a 餘暇をどういうふうに使っているか
  - b 家での遊びにはどんなものがあるか
  - c 遊び時間には、どのように遊んでいるか
    - (1) ラヂオをきく
    - (2) レコードをきく
    - (3) 映畫を見る
    - (4) 友達と遊ぶ
    - (5) 散歩や遠足をする
- 9 宗教的感情の陶冶
- 低學年において宗教について教えることは困難であるから、家庭内の宗教的氛圍を作るように心掛ける。例えば、食事を食べるときに感謝の意を現わすなどはその一つである
- 10 交易の必要について
- 賣買によつて、社會の相互依存について知らしめる
- 11 其の他の社會的機能
- 配給所 八百屋などについて知る

B 社會的洞察と社會的關心の擴大

- 1 個人は社會にどう影響されるか
- 2 社會と個人との相互依存
- 3 社會を改善し、進歩させるにはどうすればよいか
- 4 社會の機構はどうなっているか
- 5 共同、協力の意味を知る
- 6 他人の感情、思想を尊重する

C この單元を経験することにより自己の完成がなれる

兒童は物を作り上げること、劇をやること、圖畫を描くこと、歌を作ることなどによつて、  
 一步一步、仕事を完成してゆく。小さい完成が一つ一つなされることによつて、兒童の自己  
 が次第に完成されてゆく

VI この單元の取扱いについては實際的考慮がなされている

- A この單元は兒童の直接環境たる家庭生活から取られたものである
- B 内容としては既に家庭生活において経験したものである
- C 兒童はひな市を見學している
- D 材料として用いられる色紙、粘土、人形、道具などは手近にあるし、今まで  
もそれらのものを用いた経験がある
- E 學校の内外におけるいろいろな行事や學藝會、自由研究、班學習（文學班、  
演劇班、音樂班、繪畫班など）と密接な關係をもつている
- F 所要時間は十時間を豫定しているが、この頃の兒童の興味と持続から考えて  
適當だと思ふ

V 導入の方法

この單元の學習は、次の點より見て容易に導入出来るものである

- A 學區域（北町や柳町）に、小さいひな市が立つし、都電を利用すると、十分位で新宿の三越、伊勢丹などのデパートがあり、そこでひな市が見られる
- B 女のいる家庭では、ひな段が出来ていることが豫想される
- C 教室は、教師並びに児童によつて桃の花がかざられている
- D 「ひな祭」の唱歌を音楽の時間に學び、しきりに口づさんでいる（音楽と連絡）
- E ラヂオや新聞や雑誌などでも、ひな祭のことを傳えている

## VI 期待される學習段階

### A 發端

- 1 教室は桃の花で飾られている
- 2 黑板には「ひな祭」が近づいたことが書かれている
- 3 ひな市についての話をしていく

- 4 ひな祭に関する繪本や雑誌を持つている
- 5 ラヂオや新聞で「ひな祭」のことを知つている
- 6 學習は先ず「ひな祭」の話合いから始められる

### B 環境による刺戟に對しての反應

- 1 桃の花をながめ、春の歌を歌うだろう
- 2 ひな人形を見て、自分の家でも、學校でも「ひな祭」をやりたいと思う
- 3 やがて児童は自分自身人形になりきつて喜んで遊ぶ
- 4 ラヂオを聞いて、自分でも歌い、またおどる
- 5 自分のもつている人形や、ひな市の人形について各々話し合う
- 6 このような環境の刺戟によつて、児童は「ひな祭」を、家や學校でやりたいと思うようになる

教師は以上のようなことを十分に觀察し、調査して學習をすすめ、児童の「したいこと」や「しらべたいこと」を板書しつづまとめる

## C 學習活動發展

(必要と欲求)

ひな祭の會をしたい。

(二時間)

(内容となる經驗)

- ひな祭について話會いをする
- ひな祭の歌をうたいレコードをかける  
しらべてきたものを見せ合う  
いろいろなひな人形についてしらべる
- ひな人形をつくる
- 新しい歌をつくる
- これらの作った人形や歌を使つて、ひな祭の會をやらうとの發議  
がなされる。皆な賛成する
- 計畫について話會いをする
- 出来るだけ楽しく盛にやりたいとの考にまとまる
- 作った人形や歌を中心に、いろいろな人形を持ちよつてやること  
にする

ひな祭の會の計畫を立てそ  
の練習がしたい。(四時間)

- かざりつけの花を作る
- たべられるものを持ちよる
- お供えもののあられや、ひし餅などをつくる
- これらのものを色紙や粘土で作る
- 劇、舞踏、音樂の練習をする
- ポスターも必要となる。いろいろなものならべる
- 分團にわかれて、これらの仕事をやつたり、練習をする。練習は  
他教科の學習の中に分擔して行い、二時間とする(圖畫、工作、  
音樂)
- この會に、おうちの人々もおよびしたいという希望が出、そうま  
とまる
- めいめい、うちの人へ案内の手紙をかく
- 會の役目がきめられる  
全員が手分けして會をすすめることにする
- ポスターが教室の内外に貼られる

ひな祭の會をやる。

(四時間)

○ 圖畫、習字、工作などの作品が飾られる

○ ひな人形のかざりつけをする

○ 自作の人形や、いろいろな外國の人形もかざられる

○ 劇、唱歌、舞踏、お話しなどが 家族の参列のもとになされる

(二時間)

○ 家族の人々の特別出演がなされる

○ 手のすいた教師も、この會に参加してやる

○ お客のもてなしがなされる

○ 會がうまくいったか、どの點がまづかつたかについて話し合う

○ 父母や教師の参加について感謝し、お禮の手紙をか

○ 來年のために、人形をどうゆうふう保存するかについて話し合  
う

○ 防虫劑についての質疑がなされる

ひな祭の會についての反省  
をする。

VII 兒童の生長時期に照して期待する經驗の成果

A 身體の成長

- 1 身體活動を促がす
- 2 小筋肉を十分に働かせ、筋肉の調整作用が行なわれる(工作や圖畫)
- 3 遊戯、劇、ダンスなどのリズムミック運動によつて、身體を優雅にこなし得るようになる
- 4 緊張した神經を緩和し、身體的發育を促す
- 5 ごっこ遊びより、食事の作法を覚え、咀嚼を知らしめる

B 知的成長

- 1 家庭生活についての知識を得る
- 2 行事の意義を知る
- 3 歴史的關心を高める

- 4 季節的關心を高める
- 5 人生と自然との關係について正しい見聞をもつ
- 6 計畫力がつく
- 7 他人の仕事を評價する能力がつく
- 8 手紙のかき方や、通信の仕方を覺る
- 9 ひな祭を中心とした家庭生活に關する言葉を知るようになる
- 10 物の保存法とその必要を學ぶ
- 11 物を數える能力がつく
- 12 讀書力が養われる
- 13 道具を選んで用いることを知る
- 14 簡単な歌を作り、物語を書くことにより、語彙が豊富になり、言語表現の方法を覺える

### C 社會的生長

よい習慣と態度が養われる

- 1 他の兒童と共に働らき、共に遊ぶ習慣が養われる

- 2 持物や材料を貸したり、或は借りたりすることを覺える
- 3 他人の權利、意見、指示などを尊重するようになる
- 4 仕事をするのに注意深くなり、物を大切にできるようになる
- 5 自分のことは自分でやる態度が養われる
- 6 積極的に他人と協力するようになる
- 7 家を愛し、家族を愛し、訪問客を尊敬するようになる
- 8 家庭の有りがたさを知る
- 9 他人の作つたもの價值を認め、その良不良を識別する能力が養われる

### D 情緒的生長

- 1 責任觀念が高まる
- 2 グループ全體に愛せられるようになる
- 3 美的情操が養われる
- 4 女兒として優雅な情緒が發達する
- 5 男兒は女兒の生活に觸れることが出来る

VIII

資料の主な所在

A ひな市 (VAを参照)

B 人形を持つているような家を訪ねる

C 博物館などにある昔の人形を見る

D 雑誌、童謡、童話、ラデオ、新聞などが利用せられる  
教師のための参考書

柳田 國男 木綿 以前 創元社

江馬 務 服装史 創元社

(備考)

この案は東京都新宿区市ヶ谷小學校児童を豫定したものである。  
當校は牛込高臺にあり、木造ながら戦災をまぬかれた。  
一年児童は四組に分れ、各組四十名位である。  
保護者層は、いわゆる知識階級が七〇%位である。

學區域の五〇%位戦災を被つている。

學校より新宿へ都電約十分、飯田橋驛へ都電五分位である。

近くに國際軍事裁判所、大日本印刷、區役所、警察署、郵便局などがある。

二月中旬より三月上旬に取扱ひ十時間完了の豫定である。

「ひな祭」を通して児童の全經驗領域を覆うにはかなりの無理を感じるもので、ここに取られた單元も結局は「家庭生活」の一面として、その展開を試みたものである。

## 第二節 おみせ

(第二學年)

### I この單元の一般的價值效用

#### A 兒童に對して

此の單元によつて、兒童は主として、日常生活に必要ないろいろなものは、どこから手に入るか、それはどういうふうにしてつくられ又どんなにして店頭に出されたり、配給されるかについて關心を深め、兩親の配慮や生産者、輸送者、販賣、配給業者の苦心などを學び、社會生活における各個人の相互依存に對する理解を深くし、又このような社會に在る自己の地位と責任を知つて、常に最善の努力をなすようになる。

### B 民主的社會に對して

前述のような諸經驗によつて兒童は

- 1 社會の配給販賣機構
- 2 社會連帶の事實
- 3 社會に對して自分の能力を最大限に發揚することの責任を理解し、責任ある社會の一員として大切な態度や能力を體得する

### II この單元には次の事柄が考慮されている

#### A 兒童の發達と成育

- 1 内容となる經驗は興味を刺戟し、學習意欲を満足せしめる
  - a 買物については子供は特に興味をもっている。  
家人の買物について行く。



代つて行きたがる。

- b この好奇心と模擬の心が「お店ごっこ」として表現される。
- c 店の準備や売り買いの遊びで身体的活動をも満足させる。
- d 物をつくる意欲を養う。

2 この経験は児童の身体的社会的自己完成の必要を満足せしめる

- a 身体的必要——子供は非常に活動的であるが、此の單元では、商品の蒐集や製作や店舗の飾りつけ、賣買等、多くの活動を必要とするから、その要求に應ずることが出来る。
- b 社会的必要——グループの共同作業によつて社会的本能の發達を促し、又衣食住についての理解を深める。
- c 自己完成に對する必要——衣食についての父母の苦心や社會の人々が物を分けあうことを知ると共に、自己の社會人としての責務を徐々に理解して行く。

B 單元中の経験は児童の過去の経験と密接に連關している

1 學校外

- a 「お店ごっこ」に表われる諸活動は子供がまだ母の背に居る頃から見聞きしていることであ

る。

- b 更に入學前に誰の指導をも受けない時に、友だちとの遊びとして経験して來ている。
- 2 學校内

「お店ごっこ」としては、はじめてであるが賣手、買手としての挨拶の言葉や作法などにはもう事かかぬであろう。

C 單元の内容となる諸活動は更に興味と活動を導くように出來ている

1 收得する新知識

- a 衣食住に關する品々の名前、生産方法、生産地、運輸、配給、販賣消費について
- b 子供らしい店のつくり方、經營の仕方
- c 社會の一員としての勤勞の義務
- d 父母の苦心、社會人の努力の理解

2 次の如き技能や技術が得られ、又強化される

- a 接客の言葉
- b 廣告宣傳

- c 工作（商品を作ることから）
- d 圖畫（店を飾ることから）
- e 數えること（賣買から）

3 次の如き態度や批判力が新に得られる

- a 仲間と一緒に計畫し、教えたり、教えられたりすること
- b 一緒に遊んだり、力を合せて作業したりすること
- c 求知心の發展

D これらの單元に於ける經驗は更に次の如き興味を引きおこす

1 將來の學校内に於ける興味

- a 諸種の「……どこ」の計畫
- b 他教科の學習への意欲を増す、例えば數えること、讀むこと、話すこと、描くことの如き
- c 共同作業の誘導

2 將來の學校外に於ける興味

- a 商店の觀察
- b 父母への感謝と協力
- c 公共心への眼さめ

E 包含される單元の内容となる經驗は兒童のグループ間で行う民主的生活を助長する

1 興味の個人差

- a 企畫經營に興味あるもの
- b 仕入運搬に興味あるもの
- c 店の飾りつけに興味あるもの
- d 賣手となる
- e 買手となる

これは交替させ兩方共經驗させる

2 能力の個人差 いろいろ好きなものは各兒童によつて異なるだろうが題材がゆたかだから満足させ得る

- a 商品作製に難易がある

- b 作業に難易がある
- c 皆それぞれ能力に應じた仕事を選択しうる
- 3 グループに對する社會的適應の必要程度
  - a 話し合いによつて自己に適する仕事を引受ける
  - b 各人が自己の力を發揮することによつて仕事の成否が分かれることを體驗する
- 4 情緒的傾向
  - a 世は相持ちの心、すべての人への感謝を養う
  - b 父母への感謝
  - c 仕事の協力者への感謝
  - d 客の應待から受ける實感
  - e 仕事の成功によつて感情の安定を得る

### F 單元の内容となる經驗は兒童のグループ間で行う民主的生活を助長する

- 1 これらの經驗は個人や小さいグループや全グループに對して民主的生活を求め
- 2 これらの經驗は批判的な考へ方、寛容、共同、他人の權利の尊重、その他これについての

- a 態度を助長するものである
- a 時にはうまく行かないためにお互の間に争も起ろう。しかし反省させることによつて寛容となる
- b 自己の我儘を發揮する者も出來よう。これも話し合いでうまく導かれる
- c 協力の効果を知る機會が多い

### III この單元の中には人間の基本的要求が内容として考慮されている

#### A 次の主なる社會的事項について内容となるべき經驗が考慮されている

- 1 衣食住に關することなので、生活及健康の保護保全に關係がある
- 2 資産及自然資源の保護保全と深い關係がある
- 3 原料の確保——現在の窮乏と結びその大切さを認識させることが出来る
- 4 商品生産と消費及その仕事——それは「お店ごっこ」の主題である——幼稚ではあるが
- 5 輸送と商品との交易——これも幼稚ではあるが主な經驗の一つである

- 6 通信——生産者への商品の注文など考えられる
- 7 社会的統制と政治——極めて初歩的ではあるが、配給の問題にふれる。従つて統制にもふれる
- 8 自由の伸長——共同の精神に徹することによつて自由の伸長に結ばれる
- 9 教育——II (1)に記してある
- 10 新知識の発見——II c (1)に記してある
- 11 レクリエーション——お店ごっこは一面學習であるが、全體的にレクリエーションの傾向がつよい
- 12 美的表現——お店をかざる、歌う、おどる、作文をかく等
- 13 宗教的表現——社會連帯感と感謝の心を養うことが出来る

B これらの經驗は社会的洞察と社会的關心とを増進せしめる

それはAの各項特に1・2・3・4・7・8を吟味すれば増進せしめることは明らかである。」

#### IV この単元の取扱については實際的考慮が拂はれている

A 材料や必要なものが利用せられ得る

- 1 實物はまわりにいくらでもある。
- 2 圖工の作品で實物の代用が出来る。

B 同じような活動が今までに經驗され、又最近經驗されたことがある (II B 參照)

C 内容となる經驗にはどの位時間が費されるか  
約十六時間の豫定である。

D これらの經驗は學校の實情に即して實際的で價值がある

通學區域が中央市場をもち、東京都でも生活物資賣買の中心地區にあるので子供達の遊びとして「お店ごっこ」をよく見受ける。

#### V 學習の導入法

A 現在経験から生れて来る興味を通して

児童はいつもマーケットを見て面白いと思つてゐる。そろそろ進んで母の代りに買物もしたいもう二年生としては相當に學級生活に馴れて共同作業を喜ぶようになってゐるのみならず、先にも記したように「お店ごっこ」はレクリエーション的性格をもつてゐるから、たやすく導入し得る。先ず児童をつれて町を歩いていゝいろいろな店の前をとおる。

B 整備された教室環境を通して

店に關する繪、本、寫眞、模型などを教室に配列する。」

C 児童のサジェスションを通して

「あのマーケットできれいなジープ賣つてたよ」「いつてみよう」というような児童の會話から。

D 教師のサジェスションを通して

「今日のおひるの給食は「なす」です。どこから來たろう。一つお店をしらべましょう」というような教師の扱い方によつて。

VI 期待される展開

A 發端

この單元は二つの學習活動をもつてゐる。

第一は「八百屋ごっこ」であり

第二は「マーケットごっこ」である

1 八百屋ごっこ

a 教室にいろいろな店の繪をおき、とくに八百屋に重點をおく。児童の會話から實際の店をみにゆく機會をとらえる。

b 教室に歸つての話し合い

Vを腹案において話し合いをすすめる。おみせごっこを示唆し、店の種類をきめさせ

る。大勢は「八百屋」に落付くと思う——時節がら又商品の入手し易さから  
(教師のサジェスションを通して)

2 マーケットごっこ

児童中、八百屋以外のお店をつくりたい者は第二の學習活動で生かしてやりたい。これは學級中の數分團に別々の店をつくらせてマーケットを構成させるのである。

B 環境による刺戟に對しての反應

1 前時によつて自分の店をえらんだ児童はいよいよとりかゝる

教師「お店をりつぱにするにはどうしたらよいでしょう」

児童「おやさいや水菓子をたくさんならべます」

児童「お店をきれいに飾ります」

教師「やおやさんのお店にはどんなものがありますか」

2 児童の答によつて板書する

そしてその各の用意の仕方について問答する

a 粘土細工

b 切り抜き

c 繪畫

の三種で製作すること、又自然物を利用すること

C 學習活動の展開

(1) 「やおやごっこ」

(必要と欲求)

早くお店の支度にとりかか  
りたい。

改めて「ほんとうのやおや」  
を見學に行きたい。

(内容となる經驗)

商品についての計畫を話合う、つくる品、數、使用材料、作る人な  
どについて構想をねる、組中總がかりで立派なお店をつくることに  
する、注文の手紙なども考えさせる

班をつくる、挨拶の言葉をねる  
調査條件をきめる

a どんな品物があるか

b それはどこで出来るか

c どうして運ばれるか

商品やお金や配給券、リヤカーなどをつくりたい。  
お店をつくりたい。

店員や買手やになつてやつてみたい。  
商賣をはじめたい。

d ねだんは  
e 配給の研究

研究発表（きうりの旅といったような話をさせるのもよい）  
組を數班に分けて各班毎に分担數をきめる  
教室内に位置をきめる

臺や棚の工夫

商品の陳列

店内の美化

店員は各班から一人づつ出す、班毎に買いに行く、その順序をきめる、他の班が買う時は皆これを參觀することにする  
買う作法

賣る作法

金の勘定、會話、買ったものの處理等の討議をする

（一時間）

（二時間）

（二時間）

### 第一回の實演反省會 第二回の實演及反省會

2 「マーケットごっこ」  
マーケットをつくりたい。

各班毎に店をつくりたい。  
店をつくりたい。

宣傳會を開きたい。

活動をはじめたい。

賣手、買手の技術の研究、言葉の研究

（一時間）

（以上十時間）

設ける店の種類をきめる、各班の競演、優良店の表彰など

（一時間）

班は希望によつて新らたにしてよい

各店の位置をきめる

趣向は各班に任せる、店名（看板を忘れぬこと）

（二時間）

各班から代表者を出して自分の店の内容や特長を宣傳させる

（一時間）

各班毎に賣手、買手をきめる、買手は他の店へ買いに行く

（一時間）

反省會

店の批評

優良店の表彰

(公正な投票による)

(一時間)

VII

兒童の發育時期に應じて期待される經驗の結果

A 身體的成長

商品の製作によつて道具の使い方が上手になる、筋肉の協調運動が發達する

B 知的成長

商品の産地、輸送、配給、價格等のしらべ方及びその内容の理解  
言語能力、作法の體得  
計畫の立て方

改善方法の會得

C 社會的成長

設備を共同して作ること  
お互の考えを話し合うこと  
賢い評價の方法(優良店表彰)  
事業に對する反省、他人の言を傾聽すること  
商業の機能

社會に於ける個人の地位  
父兄の恩、世の人々の恩

D 情緒的成長

仕事を仕上げた喜び(店)  
人の仕事の出来ばえを鑑賞する心持  
目的達成への熱意



研究の趣味  
發表の興味

### VIII 資料の源泉

- A 遠足などに行つた時、野菜の栽培を観察する、店舗を観察する
- B 標本や繪本などで説明の材料をあつめる
- C 書籍、映畫等よりあさる

### 第三節 のりもの

(第三學年)

#### I 單元の一般的價值効用

##### A 兒童に對して

この年令の兒童は「のりもの」に對して非常な好奇心をもつてゐる。それ故、この單元の學習活動は自ずと兒童の活潑な活動を促し、兒童の全能力を發揮させることが出来るだろう。その結果、兒童の社會的な理解態度技能が進歩することは疑いない。

例えば、のりものの種類とその機能を知るもの、のりものに關係する人々の諸活動を理解するもの、のりものを利用するにはどうすればよいかを體得するもの、のりものやのりもののために

働く人々に對する好ましい態度を習得するもの、いろいろな兒童が現われるだろう。その他、自分の道具の使い方、読み、書き、數の理解、唱歌、圖畫等が進歩し、語彙が増大し、言語發表能力が發達するだろう。

## B 民主的社會に對して

「のりもの」を學習することによつて、兒童は、こゝにも社會のために眞剣に働く人々のあること、のりものによつて個人個人が如何に便宜を得ているか、個人個人のみならず町と町、村と村、都市と農村がこれによつて結びつけられて如何に相互に依存しているか、等を知るだろう。又、この單元の學習に於ける共同學習によつて協同の有効なこと、物や知識を分かちあうことの大切なこと、お互いの立場、權利を尊重し、自己の義務を守るべきことを體得し、社會のよき一員としての資質を向上させるだろう。

## II この單元には次の事柄が考慮されている

### A 兒童の發達と成育

#### 1 この單元での學習經驗は興味を刺戟し學習意欲を満足せしめる

##### a 兒童の興味を刺戟する

この年令の兒童は特に動くもの、即ち機械や動物に興味をもっている。幼い頃から母や姉の背中に負われて、一日飽かずに眺めたものの一つは「のりもの」である。特に、この目黒の兒童たちは交通網の中に育つて、のりものに關し見たり、利用したりする機會を多くもっている。これらについて學び、遊び、活動することに兒童は興味を覺えるに違いない。又、調査の方法もやゝ複雑になり、表現の活動も全身活動を満足させるような多くの場合を豫想し得るから、この點に於いても兒童の興味を満足させることが出来る。

##### b 好奇心を満足せしめる

#### (1) 次のような疑問についての好奇心を満足させる

- (a) のりものにはどんな種類があるだろうか。どうしてあのように速く走り、強い力を出すのか。自轉車はなぜ倒れずに速り、船はなぜ浮ぶのか。
- (b) のりものに働いている人は羨しいが、どんな人がいて、どんな仕事をしているのだろうか。
- (c) のりものはこの町でどんな役目をもっているのだろうか。汽車や電車、バス、汽船

飛行機はどこからどこへゆくのか。のりものが動かなくなつたら世の中はどうなるだろうか。のりものの交通に邪魔になるものは何だろうか。

(d) のりものにのる人はずい分多いが、何をしているのだろうか。のりものの運ぶものはどんなものだろうか。

(e) 動物はのりものにならないかしら。どんなものがのりものになり、どんな働きをしているのだろうか。

(f) 他の土地や國、昔の、それから未來ののりものはどんなだろう。

(2) のりものについて見學に出かけ、實際にさわつて見たり、働いている人達の話聞いてみる。

(3) のりものについての映畫を見たり、本をよんだりする。

c 劇化意欲を満足させる

「のりものんつこ」によつて身體的な運動による劇化意欲を満たす。「のりもの」こつこでは昔の旅、他國の旅を劇化することも出来る。「のりものごつこ」は今まで自然に行われているような單純なものでなく、驛の人々やら、のりものにのる人々、さては信號機になつたり、交通巡査になつたり、自轉車になつたり、ジープになつたり、大いに愉快に

何でもかでも擬人化して行うことに注意すれば、兒童の劇化意欲を十分に満足出来る。

d 物をつくらうとする意欲や物を操作しようとする意欲を満足する

模型製作、諸種の表現活動それに附隨する道具の使用、作品の操作、及び見學調査の時に實物を操作することによつてこの條件は充たされる。自轉車などのりまわす能力をつけることもこの項の條件に適うだろう。「のりもの」ごつこは、道具を十分に用いることによつてこの目的を達することが出来る。

e 分ち合い、通信の意欲を充たす

兒童が各々の知識、資料の交換、討議、道具の共同使用、作品の展覽、見學先への禮狀また未知の土地の兒童たちへのその土地の「のりもの」の問合せなど、また共同の遊戯(のりものごつこ)によつて充たされる。

f 身體的活動を助長する。

驛、工場、街路、港、バスの車庫、等を訪ねる。又、遊びや工作によつて大きな活動、細かい活動いろいろあるから身體的要求が満たされる。

g 思想や感情を美的に表現するよう助長する

「のりもの」の繪を畫く。「のりもの」の物語を短文でつくつてみる。「のりもの」のた

めに働く人々のことを作文にして見る。童謡をつくつたり、うたう。リズムカルにたのしく遊ぶ。殊に現今ののりものは汚いから、これを美しくした場合の楽しさを考え、それについて表現活動を促すような機会を與える。「のりもの」の歌をうたう。おどる。物語をよむ。

2 この経験は兒童の身體的、社會的、自己完成の必要を満たす

a 身體的必要

この年令の兒童は筋肉が急速に發達して、大きな全身的运动をのぞむ時期である。従つて個人差をよく見て、余り細かい業を全てのものに強いてはならない。見學と製作、遊び唱歌等で身體の全ゆる部分が活動する。但し、神経も未だ強くなく、強い刺激に長時間耐えるのは無理であるし、この時機に肉體運動の無理をすると結核になり易いから、「のりもの」に関する見學調査はなるべく短時間に限り、その他の諸活動も、合い間に話し合いや唱歌、おはなしなどを混ぜて休養を計るべきである。

b 社會的必要

共同學習、見學、製作、遊びによつてグループにおける自己の責任と能力を知ることが出来る。また自己の得意とする方面を知りそれによつて社會のためになることを知る機會

が與えられる。「のりもの」に對する社會的態度が養われる。

c 自己完成の必要

なによりも要求水準を低く見てやる必要がある。第五學年に於いても再び運輸を學習するのであるから、ばくぜんと「のりもの」をつかめばよい。要求水準を低くしてどの兒童にも成功感をいだかせること、これが自己完成への第一要諦であらう。

次はグループの活動で誰もが役割を果し得るようにすること。

第三に、この單元の學習活動は實に多種多様であつて、製作の對象も方法も無數であるから、兒童の個性を活用する余地は十分にある。各兒童は自分の最も好む道をとることによつて相應の満足感、自信を得る。

B 單元中の経験は兒童の過去の経験と密接に連關している

1 學校外における経験

前述のように兒童は幼時から今日に至るまで「のりもの」に關しては多くの経験をもつてゐる。

a 繪本や寫眞でみた

- b おもちゃでのりものをいぢつた
  - c 「のりもの」を見に行つた
  - d 「のりもの」につて家族や友達と遊びに行き、又用事に行つた
  - e 「のりもの」に注意しないと危いことを教えられた
  - f 家族が「のりもの」を利用して通勤通學している
  - g ボートや自転車で遊んだ
- 等。また、目黒で生活する子供は交通網の中におかれているので、その「のりもの」に関する経験は無数である。

2 學校内における経験

學校ではこれまで何回も「のりもの」を利用して遠足をしている。又、今までの學習でもすでに「のりもの」に関する知識や態度を養う機會があつた。例えば、一年―(算數)自動車、電車、汽車、帆船。三年―(國語) 石炭、松の根等。また去年Sが自転車にぶつかつてけがをしたとき皆それを見、また交通に關して注意を受けた。

C 單元の内容となる諸活動は更に興味と活動を導くように出來ている

1 新知識が得られる

a 「のりもの」の種類と用途

- (1) 汽車、電車、自動車、自轉車、オートバイ……陸上用
  - (2) 汽船、ボート、ヨット、漁船、はしけ、渡し船……水上用
  - (3) 飛行機、飛行船、グライダー……空中用
  - (4) 馬、ラクダ、馬車、牛車……動物
  - (5) そり、スキー、エレベーター等
  - (6) 遊覽船、ケーブルカー、遊びのりもの、(三輪車、スケート、豆自動車、豆汽車)
  - (7) 人力車、鐵道馬車、かご
- b 「のりもの」のために働く人々の仕事
  - c 「のりもの」を利用する人々の仕事
  - d 「のりもの」のための施設及び安全施設
  - e 「のりもの」の運用の規則
  - f 「のりもの」の歴史の概略
  - g 石炭、木炭、石油、電氣について
  - h 「のりもの」に關する新しい語彙

- i 速力に對する概念
  - j 危険防止と色彩の關係
  - k 道路について
  - l よい「のりもの」の條件
    - (1) 速度
    - (2) 危険率
    - (3) 定員
    - (4) 運賃
    - (5) のりごゝち、サービス
- 2 技能技術が新たに得られまた強化される
- a 道具の使用能力
  - b 畫くこと、作圖すること
  - c 設計すること
  - d 作文、言語發表力
  - e 數えること
  - f 讀むこと、讀圖すること
  - g のりもの、例えば自轉車にのれるようになる
- 3 態度や批判力が新たに得られ、また強められる
- a 求知心を發展させる

- b 日常觸れる交通機關が大分わかるようになる
  - c 「のりもの」のために働く人々の仕事が多くさんあること、責任の重いことがわかるようになる
  - d 「のりもの」を運用する上の規則を概略知つて交通道德に對するよき態度を得るようになる
  - e 他人と知識技能を分けあうことの大切なことを知る
  - f 共同學習において進んで責任をとることに愉快を感じるようになる
  - g 他人の意見をきき、自分の意見を他人にわからせることの大切なことを悟る
  - h 目黒が他の土地とおたがいに依存していることを漠然ながら知り、社會連帶感を養うことが出来る
  - i おたがいに公正に批判し合わないと、意外な間違いの生ずることを知る
- D これらの經驗は更に廣い分野にわたる興味を導く
- 1 將來の學校内における興味
- a 發動機の研究

- b 車輪の効用の研究
  - c 動力資源の研究（石炭、石油、電氣）
  - d のりもの發達の歴史的地理的考察
  - e 各種のりもの機能の比較研究
  - f 速力、積載量の限界
  - g 走路と「のりもの」の關係
  - h 讀圖の研究
  - i 交通圖模型の製作
  - j 發明發見はどのように世界を一つのものにしたかの研究
  - k 生活様式と風土的條件の關係
- 2 將來の學校外における興味
- a 實際に「のりもの」を操作する機會をとらえようとする
  - b 模型製作に關して興味をもつようになる
  - c ラジオ、新聞のニュースや、家族の話題にのぼる交通運輸について興味をもつ
  - d 協同生活に興味をもつようになる

- e 自分の得意とする表現方法を更に發展出来る結果、何でも積極的にとり上げて創造的表現を行うようになる
- f 旅行したくなる
- E この分野の學習には興味、能力、グループの社會的適應、情緒傾向に於ける個人差が十分考慮されている

### 1 興味

目黒は交通網の中にある。都會であるから資料資材も得易い。従つて兒童は自分の好みに従つて見學する場所を定め、製作物を選び、表現の方法を決めることが出来る。遊びも近くに教育研修所の自然園があるから存分に何でも伸び伸びとやれる。兒童はこのように自己の興味に従つて作業の選擇が出来るから積極的な生活を樂しみつゝ營む社會を得ることになる。

### 2 能力

前述の如く環境條件に恵まれているので、兒童は自分の好む分野で自己の全能力を發揮する余地が無數にある。このことは要求水準を兒童個々に即して與えることになるので能

力に無理を強いることがない。児童は自分自分の能力に従つて全力を發揮すればよき社会の一員となり得ることを學ぶであらう。

### 3 グループに對する社会的適應

環境條件にめぐまれて「のりもの」は豊富だから、到底児童一人一人では完全な調査、見學が出来るものではなく、各人の興味と能力の個人差を生かしてやることになれば、これまた一人一人では完全な製作をなすことは困難である。勢いそこに分業が生じ、分ち合いが起る。この年令の児童は今や共同學習にようやく本格的に入らんとするところであるから、このように協同の必要を感じしめることはよいことといわねばならない。その結果自己の興味と能力を生かすことが、グループの活動に於いては責任と義務を生ずることを悟るようになる。何らかの形でグループに適應せずには作業も遊びもなりたないことを個人差に應じて體得するに至るのである。

### 4 情緒的傾向

要求水準が児童各個人に與えられ、豊富な資源を自己の好みと能力に従つて選び、仲間と共に作業、遊戯することによつて、自分の不安な點を補えるから、どの児童も満足を感じながら成功に導かれる。情緒の安定性はこの單元を通じて養われると思う。

## F 内容となるグループの經驗はグループで民主的生活を助長する

### 1 個人や小さいグループや全グループに民主的生活を要求する個人としても、分團としても、學級としてもなにを調査し、なにをなす

かは児童の自由選擇にまかせてある。豊かな環境に生まれ、材料も無數であるから、共同的な仕事が多くなる。かくして第一に自發性とそれに伴うべき責任感が養われるだろう。個人のグループに對する、グループの個人に對する義務と責任が明らかになる。児童はこの單元の學習によつてだん／＼主我的な段階から脱却するにちがいない。

### 2 これらの經驗は批判的な考え方、寛容、共同、他人の権利の尊重、その他これについての態度を助長する

調査見學、共同學習、共同製作、共同の遊びにおいて現われること、自分の製作品、他人の意見や製作品、資料等を批判して、その眞價を理解するようになる。また他人の立場を尊重するようになる。特にこの時期は強い者がグループを制して、けんかをしがちであるから、皆が仲よく満足して事を成功に導くにはどうすればよいか、自分の力の不足はどう補うかなど實踐を通して把握するように導くべきである。



### III 内容には人間の基本的要求が考慮してある

#### A 内容となる経験は次の如き主要な社会機能に考慮を拂つてゐる

##### 1 生命と健康の保護保全

- A 「のりもの」の消毒、便所、その他の衛生設備
  - B 「のりもの」の安全設備、交通規則及び道徳
  - C ふみきり番とその施設
  - D 従業員の労働條件、安全設備、器具の安全使用
  - E 交通事故の理解とその対策の研究
  - F 教室内の器具の安全使用
  - G 教室内の生理的衛生的考慮
- ##### 2 資産と自然資源の保護保全
- A 「のりもの」の検査と修理

- B 道路、軌道の保全と開發
  - C 交通事故の防止法
  - D 自他及び学校の物品使用に對する共同責任の理解
  - E 「のりもの」につかう生物を大事にしてやること
- ##### 3 原料の確保

- A 鑛山業、林業、製材業、動力源の研究
- B 學習に必要な物品、資料のしゅう集

##### 4 商品の生産と消費及び送達輸送

- A 「のりもの」及びその部品の製作場所、消費地と消費する人の研究
- B 人々はいかに「のりもの」を生産、消費、取引き、送達に利用しているか
- C 教室で用いる諸材料の購買

##### 5 輸送と商品の交易

- A 「のりもの」の主要任務は人と物の輸送にある
- B 交易は「のりもの」によつて距離と時間、地形を克服して行われる

##### 6 通信

- A 信號、電話、電信の諸施設の研究

7

- B 郵便車、郵便自動車、電報配達の自轉車
- C 學級内の兒童の情報交換、見學場所、その打合せと禮狀

社會的統制と政治

- A 交通團體の法規、道德、慣習
- B 交通關係の行政系統
- C 乗客の自主的統制
- D 學校における道具、材料の使用の規約
- E 共同學習におけるグループへの責任

8

自由の擴張

- A 「のりもの」によつて人間の生活は安樂かつ能率的になる
- B 従業員の勞働條件の改良
- C 學級における活動の方法と教材の選擇の自由
- D 興味による自己の才能の發揮

9

教育

- A 「のりもの」に関する實踐的知識
- B 「のりもの」の利用と新聞、雜誌、書籍の關係

10

新知識の發見

- C この學習により兒童は進歩する
- A 今まで漠然と興味をもつていた「のりもの」を具體的にとらえる
- B 「のりもの」のために働く人々の仕事
- C 動力に関する知識

11

レクリエーション

- A 「のりもの」を改善すれば人間生活は更に快適になる
- B レクリエーションのための「のりもの」の利用
- C 従業員のためのレクリエーションの必要
- D 學級での活動にレクリエーションの機會を組み込む

12

美的表現

- A 「のりもの」を美しくすること
- B 圖畫、工作、模型製作、作文、唱歌、リズム運動等の學習活動

13

宗教的表現

- A こゝにも眞剣に社會のために働く人々を發見して人類連帶感を深める
- B 「のりもの」に感謝をもつ

C 「のりもの」に働く動物に感謝をもつ

## B 社会的洞察と社会的關心を増進する經驗が得られる

兒童は今までは漠然と「のりもの」はゆかいだ、「のりもの」を操る人々は羨しいと思つていただろう。また電車の混雑を見てただ不快を感じていたかも知れない。遠くの親類が訪問して來たりすることを何でもなく考えていただろう。それが、この單元の學習によつて、「のりもの」が如何に近代社會生活に重要な役割をもつているか、そのために働く人々はいかに社會のために盡しているかを知り、このころの「のりもの」での混雑の意味も分かるようになる。遠方の地との連絡にのりものの有難いことも分かるし、急病人の出來たとき遠い病院へも自轉車があれば速く醫者をよびにゆけることを改めて知る。こうして漠然ながら、この經驗領域の社會性を認識出来る。

また、共同研究、ごっこ遊び、共同製作を通してグループに於ける民主的生活を發展することが出来る。

## IV

この單元の取扱いについては實際的考慮が拂われている

## A 材料や必要な援助を得ることが出来る

1 兒童は「のりもの」に關しての書物、繪畫、寫眞、及び玩具などをかなりもつている。又學校には地圖、模型、映畫の用意もある

2 見學の場所についても學校に接近している

A 目黒驛……學校から一五分(徒歩)

B 赤十字博物館……二〇分(都電利用)

C 鐵道博物館……四〇分(省線利用)

3 「のりものごっこ」には近くの(徒歩十分)文部省教育研修所の「自然園」を利用することが出来る

4 工作に要する資材の原紙は家庭の廢物で間に合うし、粘土や木片や竹など學校で用意することが出来る

5 父兄や學校に關係のある人に「のりもの」に關係して働く人々がいる。このような人を利用出来るだろう

B 同じような活動が今までに經驗され、また最近經驗されたことがある

既習の社會科作業單元「郵便ごっこ」や、工作「ひらいた圖」「家」などや、描畫「おもちゃ」などは最近の經驗であるし、なお日常の兒童活動の教師記録はこの單元展開に役立つことが出来る。

C 内容となる經驗にはどの位の時間が費されるか

事情に應じてこの單元に充てる時間は伸縮できるが、大よそ次のように豫定する。

- 1 發端として……………一時間
  - 2 企畫の活動……………二時間
  - 3 調査研究とその話し合い……………四時間
  - 4 見學とその話し合い……………三時間
  - 5 工作活動……………五時間
  - 6 遊び……………三時間
  - 7 整理……………二時間
- 合計二〇時間

D これ等の經驗は學校の實狀に即して實際的であり價值がある

- 1 目黒驛にはいろいろの交通機關が集中して見學場所として好適である
  - a 省線山手線の主要驛
  - b 會社線目蒲線の起點
  - c 都電の終點（この地點と都心を結ぶ）
  - d 郊外バスの起點
  - e アメリカン・スクール・バスの通過乗降地
- 2 學校は次の主要道路の交叉點近くに位置して時々交通事故を目撃している  
アベニュー系統

- B 櫻田門―虎ノ門―清正公―五反田
  - C 清正公前―目黒―都立高校―上野毛
- ストリート系統

四五號 三〇號

又、都電日吉坂停留所は厚生省、明治學院、聖心女學院の通勤通學者で朝夕混雑している

- し、児童の一五％は都電利用の通學者なのでいろいろの問題をもっている
- 3 素材が豊富であるし、強い興味に支配されているから児童は熱心な學習活動を繼續するであらう

## V 學習への導入法

### A 「現在經驗」から生れてくる興味によつて

この學年の中心議題は郷土生活である。交通網の中にある目黒の児童は日々「のりもの」を利用しており、これを利用してはこゝでは社會生活が満足に營めない。従つて郷土生活研究の第一歩において、目黒驛は、あの都電は、という調べる目標が直ぐに出て来る。この様な環境の条件のみならず、この單元の學習は春の遠足、國語の「私の旅」の學習後に豫定してありこのころ家庭ではピクニックに出かけたり、また「のりもの」はとみに混雜するようになる。このような現在經驗から自然に導入出来ると思う。

### B 整備された教室環境によつて教室に次のようなものを陳列する

- 1 各種のりものの模型
- 2 繪本、繪畫、寫眞、パンフレット
- 3 學校附近の地圖
- 4 ポスター
- 5 子供新聞の交通、のりものに関する記事のスクラップ、壁新聞
- 6 のりものに関するその他のしゅう集物
- 7 のりもの……實物……例えば自轉車

### C 児童の提案によつて

日曜日に何をしたか、休暇には、今朝都電が故障して十何臺も止つてたよ、そんな會話が兒童の話題にのぼり、それが教室での討議にとり上げられることもある。また誰さんの繪本には新しい飛行機があつた。誰さんのお父さんは品川驛につとめているから驛を見せてもらいたいなどということも起るだろう。こゝから容易にこの單元の學習が始まる。

### D 教師の提案によつて

右のことは教師から話のいとぐちを出してもよい。「昨日は動物園へ行きましたね。電車が混んで困ったけれど、電車がなかつたらあそこへゆくのにどの位かゝるかしら。」そこで皆がやがや言います。「ではのりものをしらべましょうか」ということになる。こんな場合はいくらでも見つけることが出来る。他の土地の珍しい「のりもの」の繪をもつて来て、その話から始めることも出来る。誰か交通事故でも起きたときなど最もよい機會の一つだろう。

(註) Aを中心にして環境を整備し巧みに事件をとらえてC、Dを織なすことによつて導入することが望ましい。

## VI 學習活動の展開

### A 發端 (整備された環境を通して)

教室には次のものを置く

教室の右の大机の上

- A 汽船と機關車、ヨットの模型 (學校備品) その他のりものゝおもちゃ各種、部分品

- B 驛長さんの帽子、車掌さんの腕章等
- C 各乗車券、號笛、信號等

後の黑板の下の棚

- A のりものゝ繪本、パンフレット、その他學校圖書館からの本、子供新聞のスクラップ
- B 前年度兒童の工作作品、調査資料
- C 最新東京全圖

後の黑板

- A 「のりもの」の童謡

後の壁

- A のりものを示す大きな繪、寫眞、子供新聞
- B のりものの型、色、構造を示す繪や寫眞
- C 昔のりもの、今のりものの圖解
- D 學校附近の地圖―昔と今―
- E 目蒲線のポスター (ピクニック季節に毎年出るもの)
- F 運賃表 (目蒲線目黒驛の圖式のもの) 時間表 (都電、目蒲線、省線)
- G 交通事故防止のポスター (日比谷にあるような分り易い統計圖的なもの)

H 前年度児童の作品（圖畫）

教室の後の左隅

自轉車、三輪車、スケート、出来ればのれるジープのおもちゃ等實物

右のガラス戸棚

工作用具、圖畫用具、繩、出来るかぎり多くの種類の材料

黒板の右下

上下をぬいた大箱四五個、かんずめの空かん、がらくた木片多数、疊一つ位の木箱に砂かおがくずを  
入れたもの（箱庭用）

B 學習環境への反應

児童は教室へ入つて、一夜のうちに變つた陳列物におやおやおどろく。そこで好奇心が湧く。児童の興味のまゝに教室内を見まわらせ、陳列物をいちることをゆるす。一つところにかたまつて混雜したり、自轉車のペダルを手でまわすやら、三輪車へのろうとするもの、繩や箱で遊ぼうという望みを起すものが出来て来るだろう。一寸こんな具合に……

○壁を見て

「これは省線だよ、茶色いや、銀いろのだつてあるよ」

「ぼくのつたよ、ジュラルミンだつてさ」

「これは目蒲線とちがうね」

「いけぶくろからでてるよ、お母さんと乗つたよ」

「ジープのりたいなあ」

○後の棚で

「もつとちがう型があるね」「きれいだな」「あゝ、かこだ」「人力車だよ、ぼくお母さんとお隣者さんへゆくときのつたよ」

「有樂町へゆけばたくさんいるよ、アメリカの兵隊さんがみんなのるんだ」

○地圖のところ

學校をみつけてよろこぶ。お父さんはどう會社へゆくのかな？ 見つけたいものはいくらでも出て来る。

○模型、實物のところ

いちりまわして、おしあいへしあいするようになる。きおつけないとけんかになるだろう。」

○前年度児童の作品

「これうまいね」「僕だつてつくれらあ」「先生自動車作らして」……

教師はこの間に

- どの児童が何に興味をもっているか
- どんな会話が行われているか
- を記録しておく。

十分から二十分自由にさせておき、適当な機会を見て着席させる。そして学習活動を話し合いに移して行く。これには教師のサジェスションを巧みに加えながら進める。

「学習して見たい ことがら（板書）」

- 「のりもの」をつくってみたい
- 「のりもの」を畫いてみたい
- 「のりものかんづき」をしたい
- 「のりもの」をしらべてみたい
- A どうして動くか
  - ” 強い力が出るか
  - ” 速力がでるか
  - ” 船は浮ぶのか
- B 運轉手はどうして動かすのだろうか

- C 鐵道や都電、バスはどこをどう走っているだろう
  - D 昔はどうして旅行したか
  - E 他の土地ではどんな「のりもの」を使っているか
  - F 世界一週するにはどんな道すぢがあるか 等々
- 教師のサジェスションによつて問題となると思われるもの
- A 人々は何のために毎日外出するか
  - B 交通のじやまになるものは何か
  - C 目黒驛にはどんなのりものが集まっているか、なぜ集まっているのか
- こゝから児童の活動が展開する

### C 学習活動の展開

(必要と欲求)

のりものを作つて遊びた

る。

(内容となる経験)

○のりものを作る計畫を話しあう

○つくるものを選択

○材料の吟味

○設計考案



○遊び方

5. さとりかゝろうとするといろいろ行きづまりが来る。

本當ののりものを見學した

5.

○見學の計畫をする

○學校附近圖を見る

○見學の場所を定める

○時やもつべき用具

○見學先との打合せをどうするか

○研究事項を話合う

○のりものの種類・型・色彩

○のりものの構造

○驛附近の様子

○のりものゝために働く人は何をしているのか

○見學中の態度、心得

○自分がしらべる中心點

○鐵道博物館、科學博物館へ遠足すること

○見學をする

○知識を得る

各種ののりものをみる

省線部電の發着間隔を比較する

乗客の用むき

はたらいっている人々にいろいろきく

○係の人のほなし

○代表が見學先にお禮をのべる

○見學先でみたことをグループでまとめる

繪にする(種類・型・色)

作文にする、詩にする

地圖をかく、圖表にする

○級全部の前で話す

○工作するのりものを選ぶ

(共同製作、個人製作)

遊びが満足にできるように

○選擇がすんだらなのお夫々一層しらべる

見學の結果をまとめて話合  
つたり發表したい。

工作にとりかかりたい。

繪本寫眞を見る、書物をよむ、父兄に話をきく、更に見學の機會をつくる（場所は後述）

○材料を選ぶ

厚紙、木片、粘土、竹、のり等

○用具をしらべる

○のりものを作る

設計圖のかき方、資材の性質、使い方、パンジャクのりの使い方、工具の選び方、こわれ易いものは遊びのとき役立たない

○車輪がうまくまわるように工夫することは三年生として新経験である

○いろいろ話し合い、しらべる

○着色する、番號をつける

外装もとのえてみたい。

以上の活動中に工作以外の表現を求める児童もあろう。これに對してはその好みにまかせて行うことをゆるし、工作と同じような展開も期待する。

「のりものごっこ」を始め  
○教室校庭、又は近所の空地を目黒驛附近として設計する

たい

○グループを定める

山手線班、目蒲線班、都電班、郊外バス班、自動車班、ジープ班

○乗務員、乗客、従業員を定める

○「のりものごっこ」をする

のりものごっこは仲々スムーズにゆかない。いろいろな事故がおこる。そこで、交通事故をしらべて見た

○統計をしらべる

教師にきく。警察署（徒歩五分）へ行く。圖表をみる。鐵道の病院を行けるものは行く。

○信號燈、警てき、手旗、てんてつ機、エンジンドア

○踏切番、ブレーキ

○交通巡査

○自主統制

外出の時間を考える。荷物をもたない。皆で秩序よく昇降する。交通規則を守る。

○のりものの條件を考えてみる

○従業員の親切が必要

楽しい「のりもの」を考え  
てみたい。

交通の混雑をまぬかれる方  
法を考えてみたい。

安全施設について學びた

う。

箱砂にいろいろ地形を作つて、適するのりものを考えて見たい。

再び遊びたくなる。

自由に身體を大きく働かしたり、又リズム的活動をたのしみたい。

二回の遊びについて話し合ふ

○乗客の秩序と感謝の念が必要  
○山では、川があつたら、海はどうする、雪がふるところでは、等から昔と今、遠いところの他の土地のことに話がおよぶ。そり、スキー、などの話。「日本は船で外國から物を運ばなければ生きて行けない。」地球儀を見る。貿易の話。

○教育研修所の自然園を利用して遊ぶ

各グループが電車になったり、自動車になったり、自転車になったり、オートバイになったりする。なわ、箱を用いる。東京、大阪、浦和の市になつたり、驛になつたり、信號燈になる子供、驛長さん、乗客、いろいろありとあらゆる役目をふりあてゝやる。

○各役割の調和をもとめて面白く遊ぶ。信號燈がなまけたり、勝手なことをするとすぐ混乱してけんかになる調和の必要と自己の責任を知る。

○警てきや合圖が全體にうまくなる。

○全體の速度や歩調がうまくリズムにのる。

○上手にいつたこと、下手だつたことを反省して話し合ふ。

がしてみたい。

父母を招待して發表した  
す。

(展覽會、學藝會)

○家庭できくこと、實際に見たことの交通上のいろ／＼を話し合ふ

○これまで學習して來たいろいろの材料と作品を展覽する

○展覽會の計畫をたてる

○係員を定める

司令者、案内係、出演者、接待係、設備係、陳列係

○プログラムをつくる

お話し、唱歌、劇、かみしばい、あいさつ

○作品の陳列の仕方を工夫する

○父母に案内状をかく

○計畫通り實施する

この單元の學習は自然に「船と港の生活」「都市の生活」へ學習を發展することが出来る。

## VII 兒童の成長に應じて期待せられる學習の成果

### A 身體的成長

體を大きく動かすことを望む時期として存分にこれを満たす機会が與えられる。模型製作によつて小活動が發達する。かくて大小の筋肉が發達する。各筋肉及び神經運動の平均調和を發展させる。

## B 知的成長

- 1 「のりもの」の種類と社會における活動を知る
- 2 「のりもの」のために働く人、利用する人の仕事や社會的態度をよく理解するようになる
- 3 讀書、作文、圖工、音樂、リズムカルに物を行う能力を發達する

## C 社會的成長

- 1 責任ある考え方、態度、行い方が養われる
- 2 ものをやりとげる意思、協同、寛容、選擇の能力が成長する

## D 情緒的成長

- 1 要求水準を超えることによつて、自己の能力に自信をもち安定した情緒をうる

- 2 積極的になる
- 3 人間連帶感と感謝を覺える

## VIII 資料の主なあり場所

### A 遠足や見學をする

- 1 目黒驛、品川驛、都電終點、バス車庫、交叉點、ふみきり、その他いろいろ
- 2 鐵道博物館、科學博物館、警察、鐵道病院
- 3 教育研究所、自然園
- 4 東京港

### B よい説明的材料

- 1 模型—機關車、汽車、汽船、オートバイ、ヨット……學校備品
- 2 玩具の「のりもの」……各自もちよる

- 3 繪、寫眞、圖表……教師のしゆう集
- 4 部分品、號笛、驛長の帽子のような實物……借りて來る
- 5 書物、……學校圖書館から
- 6 その他の新刊

「のりもの特集、日本のこども」 八月號 國民圖書刊行會（十圓）

「のりもの」 森 英 ニューフレンド社

「ノリモノヅクシ」 吉田忠夫 大川屋書店

「ボクノノリモノ」 クロサキヨシスケ

「のりもの」 小池巖 享榮出版社

「キシヤ」 安井小彌太

「のりもの」 飯塚吟兒 自然社

「ノリモノ」 中島龜三郎 清水書院

「汽車の一日」 土田三郎 春江堂

「古今東西乗物繪本」 小學生全集22 文藝春秋社

「新東京案内精圖」 日本地圖株式會社

少年科學繪本

汽車の話

東京社

鐵道博物館

#### 第四節 私達の町のなりたち (第四學年)

##### I 作業單元についての一般的價值効用

###### A 兒童に對して

この單元の學習により兒童の毎年體驗するこの郷土の年中行事である「ボロ市」がその起源も古く歴史時代の人も同じ行事に生活したことを知る。今の世田ヶ谷の發生起源である。中世の歴史時代の聚落の發生の一端を知り、併せて當時の社會生活狀態の概要、封建制社會における領主の社會政策を市場の保護、交通路の變更を通して理解出来る。現在の郷土の實態を歴史

的背景の上に認識し、自然環境と戦い、之に適應する開拓者の苦心を農家の生活と様相の中に伺い知ることが出来る。

この學習を通して文獻處理、統計處理の技能をも養うことが出来る。

###### B 民主的社會に對して

學習經驗の中での、各グループの共同作業及び責任の分擔によつてそれ／＼特別な成果が得られると同時に、兒童自身もその特性に應じた知識能力を全體のために貢獻して協力出来る。郷土の理解は直ちによりよき將來の郷土の民主的社會生活の改善に役立ち、郷土を誇る心や愛郷心が養われる。

##### II この單元には次のことが考慮されている

###### A 兒童の發達と成育

###### 1 興味の刺戟と學習意欲の満足をきたす方法

a 兒童の興味をどう刺戟するか

「ボロ市」 自體の歴史的背景の興味、世田ヶ谷の歴史的關係に對する興味、農家商家の  
開拓當初の苦心に對する興味

b 次のような疑問について求知心を満足させる

- (1) 「ボロ市」にはどんな品物を賣つてゐるか？
- (2) 何のために「ボロ市」は出るか？
- (3) 「ボロ市」はなぜ世田ヶ谷上町に正月にだけ出るか？
- (4) 今の道と昔の道は同じか？
- (5) 豪徳寺の寺と公園は昔の人と關係があるか？
- (6) 農家はみな、なぜわら屋根でうしろに森があるか？
- (7) 昔の農家の人も今と同じ物を作つたらうか？
- (8) 昔の江戸（既習）とどちらか古いか？
- (9) なぜ近頃は人が多くなるのだろうか？
- (10) 市、豪徳寺、農家等を訪れての疑問
- (11) 昔の話、農家の話、傳説（例えばまねき猫）等の話をその場所の人から聞く

## B わかち合 ・ 意志の疏通

1 各班作業の成果を知らせ合い、學習活動に關係があり、役立つ物が家にあつたら持つて来て見せ合う。自分の知つてゐることはよくわかるように皆に知らせてやる。

a 身體的活動—實地見學に行く活動、調査資料の整理に要する活動、見學で見て来た人々の動作のまねをさせる等

d 思想感情の美的表現—市のスケッチ、農家の形、構造等の描畫、ボロ市、豪徳寺、昔の人の交通、農家の生活等の物語或は詩的創作表現

2 兒童の諸要求を満足させる方法

a 身體的要求—相當に身體を使いたい年齢であるので、大小の自由な實地見學を各自にやらせる

b 社會的要求—兒童の個性は多様であり、且つこの學年では、相當の分化があるので、各の個性を尊重し得意の作業をやらせてグループの中の一員としての自覺と個人の價値を見出さしめる

技能的特性のある兒童は調査記録、その發表に更らに自己の新分野を發見することが

あろうし、之が將來の協同學習に役立つばかりではなく、作業分擔に當つては、積極的に適當な仕事を選択して能動的な活動をするようになる

- e 自己完成の要求—兒童の各自が目的をたて、之を完成して行くことは分團中の一員としての自己完成である。教師は上手に各兒童の學習活動を指導しなくてはならぬ同種の作業を他にやる者があると、各々はその着想、經過、成果についておのずから比較評價をして最もよい結果がどれかを自らが認定し自己を磨く

### C 兒童の過去の経験との關係

#### 1 校外での経験

- a 「ボロ市」は毎年體驗してゐる筈
- b 市、及昔の世田ヶ谷、農家、旅行或は農家の生活、住宅區としての話を親や友人等から聞いている
- c 各自の家の玩具、家具、道具、植物等の中には「ボロ市」で買った物があるだろう
- d 附近の農家から野菜等を貰つたりするだろう
- e 農家、商店街、或は行政機關には家族につれられて行つたことがあるだろう

- f 日常の用事の外出や散歩等で、附近のことは不完全ながら見ている

#### 2 校内での経験

- a 過去三年間の學習経験を教師はよく知つてゐるし、記録をもつている
- b 社會科の作業單元にも二年の「近所の働く人々」三年の「学校の近所」「近所の家」等四年の「江戸と東京」「多摩川」等で、概略の郷土事象を知り、類似現象に目をふれてゐる

### C 學習内容の興味と活動の將來の發展

#### 1 新知識の獲得

- a 「ボロ市」について—各地の市場の歴史的背景、市場經營時代、市場聚落の發生發展
- b 城下町について—日本都市と城下町、城下町の都市形態、封建時代の城下繁榮政策、城下と交通路の發達變遷
- c 農家について—農家構造の武藏野での普遍的—一般性、自然環境條件への適應、農村都市化の過程、野菜供給園としての都市周邊農業
- d 住宅について—住宅區の都市周邊分布、住宅化の問題的時期、住宅の形態的特徵（農家



との比較)、戦災とその影響

e 行政について―都市東京に對する世田ヶ谷の位置、戦災後の復舊と世田ヶ谷地區の特異の擴大、將來の施策

2 新たに要求され、或は強化される技能・

a 音聲言語の精練

b 領主、城下町、住宅區、市場等の新用語の習得

c 文献抄讀の技術、文献選擇、讀書事項の整理能力

d 計算能力、特に増加率、百分率の意義と計算

e 地圖使用、讀圖、作圖の技術

f 作文、能力の調和的發達

3 新たに得られる態度や批判力

a 市場存在の意義の理解と保存の必要

b 市場の持つ經濟的意義の變遷

c 城下町の發生と現在聚落に對する見解

d 農村の開拓苦心と自然環境へのたくみな適應

- e 戦後の都市膨脹の適正な見解
- f 將來の郷土生活の改善手段
- g 他人との更らに深い友情による學習態度
- h 他人の權威に對する理解と尊重の態度
- i 他人との知識、技能の交換によつて得られるより深い學習的態度
- j 分團の學習分擔に際しての先取的選擇の學習態度
- k 學習成果の完成を期する責任的態度

#### D 今後の興味の擴大

1 今後の學校内での興味

「武藏野の開拓」「都市東京の諸機能」「我々の生活の郷土的背景」「戦災復興の經過と郷土」等の將來提供する作業單元の展開の興味に連關する

2 今後の學校外での興味

a 世田ヶ谷町と同様の發生、形態、機能を持つた聚落を訪れた時同じ研究的態度でのぞみ  
同じ結論に達する興味

- b 變つた農家の形に出合つた時の研究的態度に現われる興味、描畫等して記録する
- c 地圖等に現われる事象の歴史的地理的研究意欲
- d 讀書により得られる歴史的語に對する新しい興味
- e 叙景的詩文、歌謠等に對する新しい角度からの解釋的興味等

### E 兒童の個人差についての充分な考慮

- 1 興味—學習活動の出發に際して分團及び分團内の 人活動の分野で各兒童の好きなものを自由に選擇させる
- 2 能力—單元的に含まれる學習活動内容はきわめて豊富で多様であるので兒童は活動の限度内で自由に身體的、精神的能力に應じて活動の機會とその分野で活動する
- 3 分團に對する社會的適應—學習活動分野を選定するが、それ／＼分團毎の計畫の線に沿つて各自の協力的態度を強く要求する
- 4 情緒的傾向—分擔作業が個人の趣味に適合せず、完成が不可能のように思われても、教師の指導によつて個人的諸種の情緒的傾向を安定せしめて完成せしめるよう注意する

### F 兒童グループ間の民主的生活法を助長する

全體學習の一部、グループ中の個人が自由に選ぶ學習活動、この中にある賢明な選擇、進んでグループの仕事を選んで實行して行く態度は、兒童にとつてはよき社會の一員としての本質的重要な態度である。

經驗内容の範圍は非常に廣く、個人の特性は充分自由に選擇の余地を與えているが、完成に必要な材料や資料は必ずしも十分ではない。乏しい資料を多くの兒童によつて使用する結果として、相互援助の互讓的態度が要求される。

グループ或は個人の仕事が困難をきわめてある時、他のグループ、個人の仕事が之を解決してくれることがある。この全體完成という責任觀念の下に各々の考や、物を分ち合うのは民主的寛容、協同、享有、他人の權威の尊重という重要な民主的生活の本質が體得される。

## III 人間の基本的生活要求を考慮している

### A 主要な社會的機能の考察

1 生活と健康の保護保全

市場での活動意欲とその衛生状態の反省

農家での氣候風土に對する適應の態度

住民の全體が何かの仕事を持つて動いてゐる

行政部面の諸施設の觀察

2 資産及び自然資源の保護保全

地形の差に基づく土地利用状態の差違

農家の土地改良への努力、土地開拓者、先覺者の苦心のあと

路面の補修と利用の梯子

消防署、警察署の機能とその考察

3 原料の確保

「ボロ市」の商品の價值判斷

農家生産物の都市需要との關係

住宅區の菜園への努力、等の考察

4 商品の生産と消費及び配分

5 輸送と物資の交易

農家生産品の供給圏と出荷方法

農家と商品街と住宅との關係等の考察

交通路今昔の變化の比較

區内主要諸路の都内及全國に對する地位

路上での輸送物の觀察等

6 通信

通信事務の公共施設

學習作業中途での意志の傳達、その方法

7 社會的統制と政治

昔の中心と現在の比較

食糧營團、農業會、その他の登録商店の意味

區役所、その支所の分布位置とその機能

8 自由の伸張

農家の農法の改良とその生活態度の改良とその生活態度の改善變化

教室内作業での自由選擇と完成への努力は兒童の興味と能力に應じて機會 (opportunity) は均等に與えられる

9 教 育

郷土行事に關する知識理解と關心

郷土の生活改善に關する文献に對して新しい關心が向けられる

郷土教育の必要性、そのための教育施設

10 新知識の發見

農家の開拓にみられる環境適應の方策の變化

社會的諸施設にみられる機械化の様子とその利用或いは使用の知識

11 レクリエーション

都會での催物

郷土の年中行事を改めて理解

公共小公園の意味

教室内作業のあいまの休憩

12 美的表現

都市、農家の形にみられる表現

宗教的建造物にみられる表現の鑑賞

學習活動内に含まれる諸種の美的表現及び鑑賞

13 宗教的表現

各個の人々の持つ職業の相互依存の原理

自然環境に對する畏敬の念とその對應の諸表現

職業守護、先覺者及び偉人尊敬の念の諸表現

學習作業中の相互扶助、相愛の念の表現

B 社會的關心と洞察の増進

1 市場見學と探究の結果、中世よりの長い歴史的の背景を現在の社會事象は何れも持つてい  
る

2 農業も商業も之に従う人々が皆相互存の關係に立つ職業であることを理解する

3 個人の職業的努力がその意味で社會生活に貢獻している事實を認識するし、働く義務を理  
解する

- 4 同時に職業に関する努力は社會状態に基礎を置いて時代的に變化することを理解する
- 5 學習活動の中でも社會的協力の價值評價の下に學習が進行することを更に強調される

#### IV 實施上の實際的考慮

##### A 材料や必要な補助物

- 1 市場、農家、商店街に関する参考書籍は學校で用意できる
- 2 調査見學箇所は何れも學校に接近する
- 3 調査事項の整理は教室内で出来る
- 4 調査用地圖或は東京全體に體する位置を示す様な大地圖も學校で用意できる

##### B 同様な經驗活動

既習の社會科作業單元（前出II、B、2、b）や日常の兒童活動の教師側の記録は本單元の展開の計畫に役立つ

##### C 必要な學習時間

第四學年の第一單元としてその前半を之に當てる。（六週間）  
計畫内容は次の通りである。

- 1 ポロ市見學……………四時間
  - 2 同上整理發表……………二時間
  - 3 城下町と城の見學……………四時間
  - 4 同上整理發表……………五時間
  - 5 現在の世田ヶ谷の理解
    - a 職業調査……………四時間
    - b 農家見學……………三時間
    - c 商店街見學……………三時間
    - d 行政機能……………五時間
- 合 計……………三十時間

## D 學校状態に對しての實際的價值判斷

- 1 學校の直接環境が學習對象である
- 2 教室の廣さと施設は學習活動を十分に満足せしめうる
- 3 學習活動に必要な材料は學校で準備できる
- 4 参考文献に兒童向の物のないのは缺點であるが、教師の準備と前年の兒童の學習記録の保存物が之を補う

## V 學習の導入法

### A 整備された教室環境を通して

一月十五、六日に行われるボロ市の廣告を教室に掲示し、郷土の歴史的行事への関連の中に郷土世田ヶ谷への關心を求めて行く  
又世田ヶ谷區内各所の例えば區役所、三軒茶屋、多摩川、豪徳寺、經堂驛等の寫眞、繪畫も掲

示する。これに刺戟されておこる兒童の話合いを誘導して發端に導く

### B 兒童の經經から生れる興味を通して

一年生以來の遠足校外指導等の話し合いにより、その經驗を地圖にこれを求めさせることにより世田ヶ谷への興味をたかめる  
或は世田ヶ谷區内の親類について話させたり、お使いに行つた經驗、自分の家が世田ヶ谷へ移轉した時のことなどを語らせる

## VI 學習活動の段階

### A 發端

- 1 教室に掲示された廣告、寫眞、圖畫、地圖等を自由に接近して見させる
- 2 班毎にかわされる話しあいに暫く自由に過させる
- 3 その間教師は兒童の話に耳を傾けたり、質問したり、相づちを打つたりしてやる

- 4 揭示されたものについての経験を発表をさせる
- 5 地図の上にもその場所を見つけさせて世田ヶ谷の範囲を確認させる
- 6 ポロ市の廣告について、何の廣告であるか、ポロ市についてどんなことを見ききしたかを話しあう
- 7 何か知りたいことはないか」というようなサジェスションなどによつて自分もポロ市に行つてみたい気持ちをさそふ

## B 学習環境への反應

- 1 学習環境を調べ廻つたり経験を話しあつたりしている間に「僕も行つてみたいなあ」「私も描いてみたい」とか「皆でしらべたら面白い」とか発見するであろう  
教師はこれをまとめて黒板に書く  
したいこと
  - (1) 世田ヶ谷の地圖をかく
  - (2) ポロ市に行つてみる
  - (3) 電車に乗る

- (4) 多摩川に行く
- (5) いろいろの場所を寫生する  
しらべたいこと

- (1) 昔の世田ヶ谷のこと
- (2) 世田ヶ谷の人口と廣さ
- (3) 地名のおこり(世田ヶ谷、經堂、三軒茶屋等)
- 3 ポロ市が一月十五、六日に行われるところから先ずポロ市の見學について話しあう

## C 學習活動の展開

(必要と欲求)

ポロ市の見學をしたい。

(内容となる經驗)

○見學についての計畫をたてる

- 1 日時をきめる
- 2 場所をたしかめる
- 3 道順を地圖をしらべてかく
- 4 持物について話しあう

○調べることからの話しあい(研究事項)

- 1 どんなものがあるか
- 2 どんな場所か(町の形)
- 3 集る人々は
- 4 市場のスケッチ(寫景圖)
- 5 市場の神様があるか
- 6 市場での催物があるか

○見學に行く

- 1 知識を得る  
市場の様子  
賣買の品物  
賣買の人々  
市場の形
- 2 疑問をもつ  
いつ始つたか

ポロ市見學の整理發表を  
したい。

○見學調査を整理する

○發表事項を表にしたり圖にしたりする

○發表する

○發表について評價する

○疑問を解決するために話しあう

- 1 市場の起源を知る  
(日本歴史年代表の見方をしる)
- 2 市場の出來た理由を考察する  
(市場經濟時代を理解する)
- 3 吉良氏の政策を結んだ人工發生の市について理解する



城下町を見學したい。

○城下町への疑問と興味を起す

○見學の計畫をする

1 地圖をみる

2 道順を話し合い圖にする

○問題の話しあい

○代表が豪徳寺への交渉

○見學に行く

○知識を得る

1 道路沿いの長い街

2 街と城との位置的關係(上町、下町)

3 城の形

4 豪徳寺

○豪徳寺で住職の話をきく

○見學事項の整理をする

○発表のために圖表化する

城下町見學の整理發表をしたい。

○發表として話しあう

○疑問の解決や話しあいによつて昔の世田ヶ谷についての理解を深める

1 世田ヶ谷城と城下町との關係

(地名の起原を知る)

2 城主と封建性(中世の日本社會について理解する)

3 城下町を横切る道路(厚木、大山街道と二子街道)の意義を考える

4 道路の變遷(現在の主要道路)について考える

5 東京の主要道路の分布と價值について考える

昔の世田ヶ谷についての理解は今の世田ヶ谷の興味をひき起し、昔と今の比較、都市周辺の一地域としての世田ヶ谷が研究の對象として豫想される。

職業調べをしたい。

○校内父兄の職業をしらべをする

1 職業別に圖表化する

2 職業分類について話しあう

近所の農家の見學をした

5。

○区内全體の職業しらべをする

- 1 方法について話しあう
- 2 警察署に行つて資料を得る
- 3 交渉の方法と態度について話し合う
- 4 資料を職業別に圖表化する

校内、区内の職業別圖表について認識しあう  
勤人と農家と商業の多いことを理解する

世田ヶ谷が住宅地 野菜供給地、商業地であることを理解する

○見學についての計畫をする

- 1 適當な農家を選定する
- 2 見學のお願い文を作製する

手紙の冒頭

あいさつ

本文

結び

近所の商店街の見學をした

5。

○見學に行く

- 3 代表によつて交渉する
- 4 代表の報告をきく

1 古老から昔の話をきく

2 広い庭と樺の大木をみる

3 古風な家屋をみる

4 何を作っているか、どこへ出すかをきく

5 住宅と地形との關係を考える

○代表がお禮の言葉をのべる

○世田ヶ谷区内の主な商店街をあげる

○地圖でしらべる、どんなところにある、そのわけを考える

○班別に分れて四ヶ所を調べる

(經堂、下高井戸、下北澤、三軒茶屋)

○地圖で道順や乗物をたかしめる

○見學に行く

昔の城主に代る今の世田ヶ谷の行政がどう行われているかという疑問は區役所に對する關心をたかめる。

世田ヶ谷の行政中心地の見學をしたい。

- 1 店の種類をきく
  - 2 卸賣か、小賣かをしらべる
  - 3 買手についてしらべる
- 見學事項の整理と發表をする
- 第三商業地としての世田ヶ谷を理解する
- 世田ヶ谷の行政治安がどうして行われているかを話し合う
- 區役所と警察署がどこにあるかを地圖でみる
- なぜそこにあるかを考え昔の城下との關連を理解する
- 玉川支所、砧支所、玉川警察、成城警察等により世田ヶ谷區の行政區劃と隣接地區を確認する
- 區役所を見學する
- 1 區長さんの話をきく
  - 2 區長さんに色々質問する

見學事項の整理發表をした

- 面積、人口の動態等
- 3 各課についてどんなことを扱うかをしらべてかく
- 世田ヶ谷警察署を見學する
- 1 署長さんの話をきく
  - 2 色々質問する
  - 3 各課の仕事についてしらべる
- 區役所の機能について話しあう
- 警察署の機能について話しあう
- 戦後の世田ヶ谷の變化について話しあう
- 戦後の人口動態を圖表化する
- 二十三區の人口、面積を圖表化する
- 區役所、警察署見學の作文を綴る
- 右の作文を區長、警察署長に贈る
- よい世田ヶ谷を作るにはどうすればよいか考える
- 研究の結果を展覽し更にその發展をはかる

VII 兒童の成長時期に應じて期待される發達

A 身體的生長

- 1 見學の實地踏査等により歩行力を増す
- 2 混雜な場所では身體を敏捷に處する
- 3 圖表化、繪畫化に於て用具を上手に使うようになる
- 4 精細な作業によつて指先の機能が相當に分化してくる
- 5 一定時間姿勢を正して人の話にきき入る

B 知的生長

- 1 計畫をたてる
- 2 手紙をかく
- 3 交渉をする

- 4 地圖や圖表を読む
- 5 調べたことを整理し圖表化する
- 6 調べたことを報告する
- 7 他人の調査を對比して検討する
- 8 實地について物を考察する
- 9 資料を集める
- 10 統計を處理する

C 社會的生長

- 1 團體の中で行動する能力が一層發達する
- 2 人の話を傾聴する態度が出来る
- 3 世話をうけた人への感謝の方法を學ぶ
- 4 社會の統制機關について理解する
- 5 區役所の人、警察の人に對して親愛感を深める
- 6 農家の人々の都會の人々に對する働きを理解する